

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（柏崎刈羽6号機設計及び工事計画）【30】

2. 日時：令和5年11月1日 13時30分～15時55分

3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）

4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

忠内安全規制調整官、江寄企画調査官、千明上席安全審査官、

中村主任安全審査官、府川安全審査官、三浦技術参与

原子力規制部 審査グループ 地震・津波審査部門

平賀係員

長官官房 技術基盤グループ 地震・津波研究部門

小林技術研究調査官

事業者：

東京電力ホールディングス株式会社

原子力設備管理部 建築技術グループ

グループマネージャー 他13名

原子力設備管理部 設備計画グループ 課長 他1名※

中部電力株式会社

原子力本部 原子力土建部 設計管理グループ 副長 他1名※

電源開発株式会社

原子力事業本部 原子力技術部 原子力建築室 担当※

中国電力株式会社

電源事業本部（耐震設計建築） 担当副長※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 配付資料

なし

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	はい。規制庁の千明です。柏崎刈羽原子力発電所 6 号機の設工認のヒアリングを始めます。
0:00:09	それでは、東京電力の方から説明をお願いします。
0:00:13	はい。
0:00:17	東京電力の吉永でございます。本日はよろしくお願ひいたします。まず初めに資料の確認をお願いいたします。本日は 16 図書ありまして、
0:00:28	上から順番に、まずナンバー1 ですが、KK6.2017 回 0。
0:00:35	6-2-5 の 6-2-2-5、タービン建屋の地主用統計参照。
0:00:42	二つ目が、KK6.2070、56 回 0。
0:00:48	6-2、別紙計算機プログラム解析コードの概要、SHAKE。
0:00:54	三つ目、KK6、補足。
0:01:00	0252 回 0、タービン建屋の時主要動計算書に関する補足説明資料、
0:01:08	四つ目、KK6、補足 025 に比較表書い 0
0:01:15	先行審査プラントとの補足説明資料の比較。
0:01:19	タービン建屋の地震応答計算書に関する補足説明資料、
0:01:25	五つ目KK6.2023 回 0。
0:01:31	6-2-2 の 13、
0:01:33	格納容器圧力逃がし装置基礎の地震応答計算書、
0:01:39	KK6.207018 回 0。
0:01:44	6-2、別紙計算機プログラム解析コードの概要系SHAKE。
0:01:51	7 番目、KK6.2070、59 回 0。
0:01:56	6-2、別紙計算機プログラム解析コードの概要を添えるプラス。
0:02:02	8 番目、K6、補足、25-5 回 0。
0:02:08	格納容器圧力逃がし装置ソウノ地震応答計算書に関する補足説明資料、
0:02:15	1 番目、KK6 補足 0255、比較評価委 0。
0:02:21	先行審査プラントとの補足説明資料の比較。
0:02:25	格納容器圧力逃がし装置基礎の地震応答計算書に関する補足説明資料、
0:02:32	10 番目がKK6.2019 回 06-2-2-9、コントロール建屋の地震応答計算書。
0:02:42	11 番目がKK6 補足 0253 回 0。
0:02:47	コントロール建屋の地震応答計算書に関する補足説明資料。
0:02:53	12 番目が、KK6.201021 回 0。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:59	6-2-2-11 廃棄物処理建屋の事業等計算書。
0:03:06	13 番目、KK6 補足 025、4 階 0。
0:03:11	廃棄物処理建屋の地震応答計算書に関する補足説明資料、
0:03:17	14 番目、KK6.2025 階 0。
0:03:22	6-2-2-15、緊急時対処建屋の地震応答計算書。
0:03:29	KK6 補足 025、6 階 0 緊急時対処建屋の地震応答計算書に関する補足説明資料、
0:03:38	16 番目、KK6004 階 0。
0:03:42	先行審査プラントとの補足説明資料の比較、建物構築物に係る補足説明資料、
0:03:49	はい、以上になりますが、よろしいでしょうか。
0:03:54	はい。後ろの方確認できました。
0:03:57	はい。東京電力吉永ですありがとうございます。
0:04:00	本日のヒアリングですが、大きく分けて四つございます。資料のナンバー1 から 4 番が、タービン建屋の地震応答計算書関係。
0:04:13	資料 5 から 9 番が、格納容器圧力逃がし装置基礎の地震用と計算書関係。
0:04:21	資料の 10 番から 15 番が、コントロール建屋等ですね、事業と解析関係になっておりまして、この 10 から 15 につきましては、7 号機の設工認図書を読み込んでいるものとなっております。
0:04:37	最後 16 番ですが、こちらの先週の原子炉建屋の地震応答計算書のヒアリングの際に提出したものと同じものになっておりまして、
0:04:46	建物構築物に関係する、補足説明資料の 7 号機との比較を一覧表で整理したのようになっております。
0:04:56	こちらについては必要に応じて適宜確認していきたいというふうに考えております。
0:05:02	また先週のヒアリングの際にですね、通し番号をつけるようにといったコメントですとか、あと補足説明資料の内容をもう少し詳しくと、
0:05:13	ニッタのコメントをちょうだいしておりますが、今回の資料につきましては、ちょっと提出のタイミングで、反映間に合っておりませんので、その辺につきましては口頭で補足させていただきながら、
0:05:25	本日はご説明差し上げたいというふうに考えております。
0:05:30	それではまずタービン建屋の地震応答計算書関係から江藤始めさせていただきます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:36	いうふうに考えておりますが、6号機タービン建屋はですね、7号機タービン建屋とアノ仁プラントになっていますので、7号機との比較も交えながらご説明差し上げたいというふうに考えております。
0:05:54	東京電力のウタダです。それではタービン建屋の地震応答計算書と関連する補足説明資料についてご説明いたします。
0:06:05	説明の流れですが、まず、ナンバー1の地震応答計算書について、7号機との差異を中心にご説明させていただきたいと思います。
0:06:15	次に、ナンバー4の比較表を用いまして、
0:06:19	補足説明資料における説明方針や図書構成の差異をご説明させていただき、最後に、ナンバー3の、
0:06:26	補足説明資料について、当初の概要と具体的な差異についてご説明差し上げたいと思います。
0:06:33	説明は30分程度予定しております。よろしくお願いいたします。
0:06:38	それでは、早速、ナンバー1の地震応答計算書をご覧ください。
0:06:44	1ページめくっていただき、目次となります。
0:06:48	目次につきましては、7号機と同様の説明方針と図書構成となっております。
0:06:55	続いて、次のページの図2-1をご覧ください。
0:06:59	こちらに配置関係等、図を載せておりますが、67号機の際となりますが、7号機タービン建屋、
0:07:06	につきましては、廃棄物処理建屋の南にありまして、6号機タービン建屋は廃棄物処理建屋の北にあることから、7号機タービン建屋は、その開口が北側でございますが、
0:07:18	6号機タービン建屋は南側に開口がございます。
0:07:23	こちらが7号機との差異となっております。続いて2ページをご覧ください。
0:07:29	構造概要ですが、ナゴ、6沖田勉建屋は地上2階、地下2階建て鉄筋コンクリート造を主体とした建物となっております。屋根部分は屋根鉄骨のトラス構造となっております。
0:07:42	タービン建屋のほぼ中央に位置するタービン発電機を支える柱及び梁によって構成される鉄筋コンクリート造のラーメン構造部以降、定時以外と略させていただきますがこの提示外含め、
0:07:56	構造概要や主な寸法につきましては、7号機と同様となっております。
0:08:02	続いて、8ページをご覧ください。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:10	地震応答解析のフローを示しておりますが、基本方針や基準地震動 S_s と弾性設計を地震動SDとして作成した設計を模擬地震版を用いること、解析モデルの設定等、
0:08:22	といった部分につきましては、全体の解析方針、
0:08:25	が、その7号機と同様となっております。
0:08:29	次のページの適用規格基準等につきましても、7号機と同様でございます。
0:08:35	続いて、33ページ目をご覧ください。
0:08:45	こちらに地震応答解析モデルの設定に用いた建物構築物の物性値等、記載してございますがこちらも7号機同様の値となっております。
0:08:55	続いて41ページをご覧ください。
0:09:04	水平方向のモデルについてですが、解析コードで7号機搭載がございます。
0:09:10	3段落目の基礎底面地盤ばねの評価に用いる解析コードにつきましては、アドミとfを用いております、5段、
0:09:19	弱面の入力地震動の算定では、解析コードSHAKEを用いております。
0:09:25	後段で出てきますが地震応答解析の解析コードNaF法を用いておりますはい。
0:09:31	あ、失礼いたしました。
0:09:34	35ページになります。失礼いたしました。
0:09:42	失礼いたしました。こちらの解析コードのSHAKEにつきましては、6号機原子炉建屋と同じ改正コードを用いておりますが、バージョンが異なっておりますので、
0:09:52	解析コードの概要について、ナンバー4の方の資料で示してございます。
0:09:58	また鉛直方向モデルの差異も解析コードのみとなっております。
0:10:03	続いて、39ページ目をご覧ください。
0:10:11	こちらは建屋の解析モデル諸元を示しておりますが基本的な構造概要につきましては67号機で同様となっておりますが、壁の配置や断面等はプラント毎に異なり異なりますので、解析モデルの諸元のその数値、
0:10:27	につきましては67号機で若干差異がございます。
0:10:31	続いて、
0:10:32	78ページ目をご覧ください。
0:10:48	でしょう。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:50	解析コード以外のその解析方法につきましては7号機と同様となっております。以降も同様の見直しを図っております。
0:11:03	続いて91ページ目をご覧ください。
0:11:12	材料物性の不確かさを考慮する解析係数につきましては7号機と同様に、建屋剛性地盤剛性のプラマイ σ 、建屋剛性高平均建屋剛性 -2σ の
0:11:24	計4ケースとしております。続いて、100ページをご覧ください。
0:11:33	こちらにコウ1解析結果について記載してございますがこちらは、67号機で傾向に差異はございません。
0:11:40	続いて、117ページをご覧ください。
0:11:49	えと117ページ目以降にですね地震応答解析結果を示しております、先ほど申し上げた通り、壁の配置断面等はプラント毎に異なること。
0:12:01	その解析モデル諸元の細かい数字が変わっていることと、あと多軸の解析モデルを用いてますことから、TMSL20.4メーター以下の、
0:12:11	一部に機能維持要求が多分建屋でわかってございますが、機能維持要求がない建屋上部の鉄骨部の応答は若干の差異が見られますが、機能維持要求がある建屋下部の応答につきましては、7号機と概ね同様な応答となっております。
0:12:27	ナンバー1の地震応答計算書のご説明については以上となります。
0:12:33	続きまして、ナンバー4の比較表をご覧くださいいただければと思います。
0:12:49	本資料は、補足説明資料の説明方針と、図書構成の差異についてまとめたものでございます。縦軸は補足説明資料名と項目を示しております、一番右の列の備考欄に説明方針や図書構成の差異の有無を記載しております。
0:13:06	まず最上段に記載している資料になっているんですけども、こちらの全体概要を記載している資料として、6号機では記載の丁寧かといった観点から、補足説明資料で、
0:13:18	失礼しました、補足説明資料で使用している、共通的な解析コード、
0:13:23	について記載してございます。別紙の構成の差異につきましては、後段でご説明させていただければと思います。
0:13:30	続いて、別紙1、地震応答解析における既工認と今回工認の解析モデル及び手法の比較ですが、こちらの方改正に伴う記載の適正化を行っております、工認という記載。
0:13:43	から設工認という記載に変更してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:46	以降すべての資料内の記載も同様に適正化を行っております。
0:13:52	また図書内容についてなんですけれども、6号機では既工認の略称に関する記載位置等の見直しを実施しております。詳細については後程ご説明させていただければと思います。
0:14:04	解析コードにつきましては7号機との差異はございますが、建屋のモデル化の変更点である補助壁の考慮や数値等については、7号機と同様になっており、差異はございません。
0:14:16	続いて別紙1-1、タービン建屋の地震応答解析モデルの変更点についてですが、7号機、同様にその機構人との比較をしております、地震応答解析に用いるコンクリートの材料物性値、
0:14:29	等の設定は7号機と同じ値となっております差異はございません。
0:14:34	続いて、別紙2、地震応答解析における耐震駅及び鉄骨部のせん断スケルトン曲線の設定についてですが、こちらアノ7号機と同様にジャックに基づき、
0:14:44	設定していますので差異はございません。
0:14:47	続いて、別紙3、地震応答解析における材料物性の不確かさに関する検討についてですが、
0:14:54	土地は先ほど申し上げた通り、建屋上部の鉄骨部の応答は若干の差異が見られますが、機能維持要求がある建屋下部の応答は、7号機と概ね同様な応答となっております。
0:15:06	こちらの資料では7号機と同様に、発生応力は基本ケースと概ね同等であることを確認しておりますので、7号機との差異はございません。
0:15:15	続いて、別紙3の1、材料物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動の選定についてですが、
0:15:23	こちら選定はが7号機と異なっておりますが、制定方法につきましては7号機と同様になっておりますので差異はございません。
0:15:33	続いて、別紙3の2、材料物性の不確かさを考慮した地震応答解析。
0:15:39	ですがこちらは7号機と同様に各ケースの地震応答解析結果を示してございますので、差異はございません。
0:15:47	続いて、別紙4、タービン建屋のねじれによる影響についてですが、上部鉄骨部が20.4メートル以下の機能維持エリアに及ぼすねじれによる影響を確認している資料でして、
0:15:59	7号機と同じ方法で検討しております7号機と同じく、その20.4メートル以下の機能維持エリアに対するねじれの影響がないことを確認しております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:11	続いて別紙 5、水平ばね、つなぎばねの諸元及び線形特性を考慮した解析についてですが、こちらは 7 号機と同様に、機能エリアである鉄筋コンクリート造部における水平つなぎばね、
0:16:24	の諸元及び地震応答解析結果を確認しております、結果につきましては 7 号機と同じ傾向になっておりますので差異はございません。
0:16:36	続いて、別紙 6、タービン建屋と提示型の相対変位についてですが、建屋と定時以外のクリアランスが 7 号機では、25 メーター。
0:16:45	はい。失礼しました 25mm 目ですね。はい。失礼しました。ですが 6 号機では倍の 50 ミリメートルとなっております。
0:16:55	相対変位の確認した結果につきましては、6 号機、7 号機同様にクリアランスを超えているといった結果になっておりますので、6 号機でも同様に局部評価を行っております。
0:17:07	そこでタービン建屋の構造健全性に与える影響がないことを同じく確認してございますので、差異はございませんと。
0:17:15	しております。
0:17:17	4 ポツの引用文献につきましては、7 号機申請では、その本文に記載していた引用文系を、6 号機申請ではその本文に加え、4 ポツ、引用文献。
0:17:28	と記載の丁寧化をしたものとなっております。
0:17:33	参考資料 1 の解析コードの概要。
0:17:38	につきましては、ナゴ期と同じく、6 号機でも ABAQUS を使用してございますので、6 号機の方で、記載していないといった、
0:17:45	ものとなっております。
0:17:53	続いて、別紙 7、タービン建屋と廃棄物処理建屋間の相対変位、
0:17:58	ついてです。
0:18:01	7 号機申請では、他 7 号機タービン建屋と廃棄物処理建屋間の相対変位について廃棄物処理建屋の地震応答計算書に関する補足説明資料の、
0:18:12	別紙 5
0:18:14	に記載しておりました、6 億申請では
0:18:19	6 オオキタービン建屋と廃棄物処理建屋間の相対変位について、
0:18:24	本補足説明資料で別紙 7 として記載しておりますが、その両別紙の説明方針図書構成 2 歳はございません。
0:18:34	比較表のご説明については以上となります。続いてナンバー 3 の補足説明資料についてご説明いたします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:57	表紙の次のページをご覧くださいいただけます。
0:19:03	本資料はタービン建屋の地震応答計算書の記載内容を補足するための資料となっております。
0:19:09	ナゴ期以降に、6号機では、補足説明資料で使用したく、共通的なコードを記載してございます。
0:19:17	続いて、
0:19:18	別紙1をご覧ください。
0:19:25	こちらにつきましては、既工認と今回コウ、
0:19:29	今回設工認の解析モデルと手法を比較する資料となっております。
0:19:34	別紙1-1のページをご覧ください。
0:19:42	文章の中段になお書きがございますが、こちらは6号機では、既工認の記載内容の省略を示す文章を追記してございます。以降、同様の見直しを行っております。
0:19:54	続いて、1-3ページをご覧ください。
0:20:01	表2-1の地震応答解析モデル及び手法の比較ですが、解析コードの箇所について、7号機から記載を見直しでございます。
0:20:10	次のページをご覧ください。
0:20:15	こちらあれ、⑦のところにタービン建屋の地震応答計算書に関する補足説明資料のうち、と記載がございますが、こちらは資料名を丁寧に記載するといった見直しをしてございます。
0:20:28	以降も同様の資料名の、
0:20:30	丁寧化について図ってございます。
0:20:33	続いて別紙変わりました別紙1-1をご覧ください。
0:20:48	こちらのタービン建屋と地震応答解析モデルの変更点について、詳細に記載してございます。
0:20:55	はい。
0:21:13	すいません通し番号をつけておらず申し訳ございません、次回以降は反映させていただければと思います。
0:21:19	こちらは解析モデルの変更点を具体的に説明する資料となっております。1枚めくっていただきまして目次をご覧ください。
0:21:30	今回、設工認モデルでは7号機と同様に補助壁、コンクリートの実剛性、表層地盤の変更を行ってございます。
0:21:39	一応一応7ページ、
0:21:42	をご覧ください。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:50	こちらに地震応答解析に用いるコンクリートの材料物性値の設定について、表の 2-1 で示してございます。
0:21:58	こちらにつきましても 7 号機と同様となっております。1 枚めくっていただきまして、
0:22:04	表彰表層地盤ばねにつきましても、7 号機と同様に表層部では、建屋地盤相互作用が見込めないと判断し、
0:22:13	地震時の挙動により実大戸に近い形で評価するため、この部分の地盤ばねを考慮しないこととしてございます。
0:22:22	続いて別紙変わりました、1-2、
0:22:26	の方ご覧ください。
0:22:37	失礼します。
0:22:38	2 になります。
0:22:40	はい。地震応答解析における耐震液位及び鉄骨部のせん断スケルトン曲線の設定について、戸部主任をご覧ください。
0:22:48	失礼しました。
0:22:51	こちらにつきましては、比較表でご説明させていただいた通り、タイヘキや補助壁の線形特性の設定について記載してございますが 7 号機同様に弱。
0:23:02	に基づき、スケートの算定を行っているといった内容の資料となっております。
0:23:08	別紙がありまして、別紙 3 をご覧ください。
0:23:21	こちら不確かさを考慮した解析結果を踏まえた建物構築物の耐震計算書において、材料物性の不確かさを考慮して設定する関大地震力の検討結果について説明する資料となっております。
0:23:35	3-6 ページに不確かさの検討ケースを示してございますのでそちらをご覧ください。
0:23:48	はい。こちらの添付と同様の記載になっておりますので説明のほう割愛させていただきます。
0:23:54	続いて、次のページ行っていただきまして、地震応答解析モデルに採用した解析モデルを示してございます。
0:24:09	これらにつきましては 7 号機と同様となっております各ケースの個別解析結果についても 7 号機と同様の傾向となっておりますことを確認してございます。
0:24:19	続いて、
0:24:20	別紙 3 のは、87 ページ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:24	をご覧ください。
0:24:34	こちらに事象と解析結果のまとめを記載してございますが、建屋剛性及び地盤剛性の不確かさと建屋剛性の不確かさともに発生応力は、基本ケースと概ね同等であることを確認してございます。
0:24:47	また7号機と同様の結果であることも確認してございます。
0:24:56	続いて別紙変わりに3-1をご覧ください。
0:25:09	こちらは材料物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動の選定方法。
0:25:14	及びその選定結果について説明する資料となっております。
0:25:19	選定方法につきましては、7号機から変更はございません。
0:25:24	3-1の12ページをご覧ください。
0:25:46	失礼いたしました。3の、
0:25:49	1-22ページです。失礼いたしました。
0:25:56	こちらの地震動の選定結果を示しております。こちらについてですが7号機では、Ssで全ばSDにつきましては、12367が、不確かさを考慮した検討に用いる地震動として設定しておりましたが、
0:26:13	6号機では、S、
0:26:15	Sと4号以外の波、SDでは、12378となっております。
0:26:24	続いて、別紙変わりにサノ2をご覧ください。
0:26:30	こちらにつきましては、ケース1から5の地震応答解析結果を記載している資料となっておりますので、説明につきましては、割愛させていただければと思います。
0:26:41	続いて、別紙4をご覧ください。
0:27:02	こちらのタービン建屋のねじれによる影響について説明する資料となっております。4-10ページをご覧ください。
0:27:18	本検討では、7号機と同様にオペフロより上部における上部鉄骨部の音事例が、機能維持エリアに与える影響の有無を確認する目的で、3次元FEMモデルを構築して評価を行ってございます。
0:27:33	続いて、40-27ページをご覧ください。
0:27:45	3次元FEMモデル及び失点系モデルの加振方向及び加振直交方向の最大応変位を視覚比較してございます。
0:27:54	こちらの結果から、20.4メートル以下の機能維持エリアに対するねじれの影響がないことを確認してございます。
0:28:01	続いて、4-30ページをご覧ください。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:09	3次元FEMモデル及び失点系モデルの屋根トラス部における鉛直方向の最大応答加速度を比較したものとなっております。
0:28:19	こちらの結果につきましても、20.4メートル以下の機能維持エリアに対するねじれの影響はないことを確認してございます。
0:28:28	また4-32ページ以降で、機器へのねじれの、
0:28:32	影響確認も行ってございましてこちら、ねじれの影響もないと考えることを確認してございます。
0:28:40	続きまして別紙変わりました別紙5をご覧ください。
0:28:47	こちらの資料につきましては水平つなぎばねの自然継続性を考慮しても、タービン建屋及び基金の耐震性に与える影響がないことを確認している資料となっております。
0:28:58	こちらの方法結果の傾向につきましても7号機と同様になっております。
0:29:03	続いて別紙変わりました別紙6をご覧ください。
0:29:13	こちらはタービン建屋とて従来の衝突の有無とその影響を確認する資料となっております。6-3ページをご覧ください。
0:29:23	比較表でもご説明いたしましたが、7号機では建屋と定時以外のクリアランスが25ミリメートルとなっておりますが、6号機では50ミリメートルとなっております。
0:29:37	続いて、6-8ページをご覧ください。
0:29:45	クリアランスにつきましては7号機の倍となっているんですけれども、6号機でも7号機と同様、
0:29:52	2Aクリアランスを超える相対変位であることを確認してございます。
0:29:57	6-9ページ以降に各部評価について記載してございます。
0:30:02	6-21ページをご覧ください。
0:30:16	3次元モデルで評価した結果を表3-3に記載してございますが、コアコンクリートにつきましては影響限界を満足しており、圧縮破壊にならないことを確認しております、
0:30:28	提示課題がタービン建屋の構造健全性に与える影響がないことを確認してございます。
0:30:34	続いて、別紙変わりました別紙7をご覧ください。
0:30:45	こちらにつきましてはタービン建屋と廃棄物処理建屋との、建屋間の最大相対変位がクリアランスを超えるか確認し、衝突範囲がどの部分か確認した後に影響を確認した資料となっております。7-12ページをご覧ください。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:08	ショートする部位の確認結果ですがこちらはアノ町部の鉄骨部分の母屋となっておりますクリアランスが 100 ミリメートルに対して超過する変位が 9mm程度であることを確認してございます。
0:31:22	続いて 7-20 ページ。
0:31:24	をご覧ください。
0:31:31	こちらに、7号機と同格評価結果を記載してございまして、母屋の耐力母屋と、上弦材との接合部の耐力、母屋の変形量について検定表 1.0 を下回ることを確認してございます。
0:31:47	以上で、タービン建屋の地震応答計算書、それに関連する補足説明資料のご説明に、
0:31:53	について
0:31:55	終わります。
0:31:59	はい。規制庁チギラです。それではここで一旦区切って、はい。こちらから確認としていきたいと思います。
0:32:07	では今の説明に関して確認する点ある方はお願いします。
0:32:21	はい。規制庁の三浦です。方針も、
0:32:25	結果もほとんどKK成分と同じぐらいだということで、
0:32:29	特に大きな問題ではないと思うんですが、ちょっと幾つか確認をしていきます。
0:32:36	まず資料 3 の、
0:32:42	補足説明資料でしたっけ。
0:32:44	その別紙。
0:32:46	1-1-2 と 1-1-3。
0:32:51	補助壁を示してますよね。
0:32:55	大丈夫ですか、資料 3 の。
0:32:57	別紙 1-1-2 と 1-1-3。
0:33:03	大丈夫ですね。
0:33:04	これでね、経験セブンとちょっと比べてみたんですよ。
0:33:10	そうすると、細かい違いは、
0:33:14	あるんですけど、
0:33:15	特に、
0:33:17	1-1-2 で見れば、TA通りとTB通り。
0:33:23	この補助壁は敬虔成分は考慮していない。
0:33:27	でもKKcノロVIは考慮している。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:31	同じように次のページの1-1-3、これも同じで、PAとTVの間の考え方が違うんですね。
0:33:38	選定基準はRCNによるってということで、
0:33:43	共通の基準を設けてるのに、ここで考慮したりしなかったり675の間下がるのはなぜですか、説明してください。
0:34:08	東京電力の吉永です。
0:34:10	です補助平均選定のルールアノReactorの補足説明資料に書いてるんですけども、壁厚が何ミリとか機械的に取れる部分もあれば、壁が上下に繋がってるとか、
0:34:22	ちょっとエンジニアリングジャッジが若干入る部分もありまして、そういったところで、多少差、差が生じています。
0:34:30	ただですタービン建屋の方なんですけれども、全体の壁量で見ますと、
0:34:35	耐震駅が9割ぐらいで、補助駅の1割ぐらいというふうになってますので、全体として見れば、それほど影響はないかなというふうに考えております。
0:34:47	規制庁三田ですが
0:34:50	補助金ある小さいのはわかって聞いてます。
0:34:53	ほとんど見るか見ないかってのは応答に影響しないだろうとは見てるんですが、
0:34:58	その気になったのはやはり、さっき言ったようにTADruittTV通りの壁って、675ほとんど変わらないと思うんですよね。
0:35:06	なのに片方が見てて片方は見てないとこれ調整不足ですか。
0:35:14	東京電力の吉永です。はい。正直に申し上げますとちょっと菅何て言うんですかね。エンジニアリングジャッジが入るところの、
0:35:24	す、細かいところのすり合わせっていうんですかね、っていうのがちょっとできて、
0:35:30	いなかった。
0:35:32	というのが実情です。
0:35:36	傾斜みたいです。
0:35:38	まあ、まあ調整が十分し切れなかったってことなんだけど何らかやっぱり、
0:35:43	六、七号それぞれの会社がジャッジをしてると思うんですよね。
0:35:48	これは少し確認をしておいてください。TA通りTb通りなんで、7号は考慮していないのに、6号が考慮したか。
0:35:57	ちょっと9日だけオカベだけでいいですあと細かいところはね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:01	本当に値が変わるところってたくさんあると思うし、それが用途に影響するとは思ってないので、
0:36:08	ちょっとそこが、そこをどうしてこういう、ほとんど同じか認めちゃうかったのかと、ちょっと目指すんですよね。
0:36:16	お願いします。
0:36:18	東京電力の吉永です。はい、承知いたしました確認いたします。はい。お願いします。それと同じ資料 3 の、
0:36:27	別紙の 2 の、
0:36:29	33 ページ。
0:36:39	大丈夫ですか。
0:36:42	うん。ここに、鉄骨部のせん断スケルトン
0:36:47	猛暑数値入ってますよね。
0:36:49	で、
0:36:50	これもちょっとよくわからなかった、5-10、表 5-10 見たときに、部材番号 2、
0:36:56	この部分の数字がこれ計 67 で結構異なるん。
0:37:01	ですよ。
0:37:03	NS方向なんで、
0:37:04	ブレースのメンバー構成があんまり変わっていなかったらこんなことの数字は出てこない。
0:37:10	と思ったんですね。
0:37:12	で、その要因を教えてください。
0:37:15	お願いします。
0:37:17	ちなみにね、
0:37:19	今の部分のブザー番号 2 の部分見ると、
0:37:22	K7 は、
0:37:24	旧案が 144630 かな。
0:37:29	9P湾が 81384。
0:37:34	旧エスワンが 6、
0:37:37	3245 かな。
0:37:39	ぐらいの数字になってんですよ。
0:37:41	ここんとこだけ他のね、イダ報告なんかは確かにその開口の位置が違ったりっていうんでまあわからないでもないんだけど、
0:37:49	このばかりにちょっと数字が食い違ってるな。
0:37:53	という理由。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:55	説明してください。
0:38:13	東京電力の吉永です。それで確認いたします六、七、Dはですね
0:38:21	大体同じなんですけれども、鉄骨造のところ少し差異あるところも多少ありまして、例えばですね別紙4の
0:38:31	パワーポイントの別紙4のねじれの図書の
0:38:39	参考資料の方、
0:38:42	パワーポイントで整理してる。
0:38:44	ものがあるかと思いますが、
0:38:47	最後のページにこれ評価対象部位の家屋根トラスの図載せていますけど、ごめんなさい。今、
0:38:57	パワーポイントの資料のどこですか。別紙4の何ページちょっと教えてください。別紙4のパワーポイントの最後のページです。
0:39:04	4ページ目。
0:39:19	はい。
0:39:22	はい。
0:39:24	資料ですね、4ページ。
0:39:28	はい。右下に番号ありまして、パワーポイントの、
0:39:32	下の下のページです。
0:39:46	すいません。
0:39:53	坂講師。
0:39:56	で仕事が、
0:40:01	別紙4はいつか。
0:40:04	次4思って。
0:40:07	はい。
0:40:13	わかりますごめんなさい。大した情報ではないんですが
0:40:17	例えばその鉄骨部の少し六、七で違うよっていうのはこの資料の評価対象部位のところ、今の6号側だと、つか材がコウ。
0:40:29	入ってなくて、斜材がコウは野地に入ってるところがあるんですけど、7号機だと、例えばここに着か剤があったりだとか、上の方見ると、
0:40:39	若干差異はありますので、数値、
0:40:43	多少差異が出てもおかしくないのかなというふうに思ってますがちょっと正確に確認、持ち帰って確認したいと思います。
0:40:57	あ、そうです鉄骨つうの。はい。入り方が33。
0:41:01	これ数。そうです。はい。説明したかったのはちょっと鉄骨でも完全に

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:09	同じようなものが入ってるっていうわけではなく、6名で多少差がありますよと。
0:41:15	いうことをちょっと1例としてお示したかったなと思ってます。いや、それで、さっきのちょっと別紙2の33、戻るでしょ。
0:41:24	本当にねこれ多分ぶれ数の話なので、
0:41:30	Q&オカP湾んとかSはね、でもブレースのメンバー構成一緒だったら、そんなに差異出てこない。
0:41:37	ですよね当然ね。
0:41:39	多分メンバーがちょっと違ったりなんかするのかなと思ったんですよ。
0:41:45	で、ちょっとたまたま私の部材番号2の部分、これ一番最後目だったんで言ったんですけど、
0:41:52	鉄骨のメンバー構成で、
0:41:55	計6名で、
0:41:57	どこが違うのか。
0:42:00	それによって、こういうふうな体力が、
0:42:05	変わってきてる。
0:42:06	それちょっと説明資料作っていただけません。
0:42:13	東京電力の品川です。はい、承知いたしました確認いたします。
0:42:16	はい。なるほど。多分メンバーがちょっと違うのかなと思って見てたんですけど。
0:42:22	ちょっと結構スケルトンで見ると差異があつてね、東京電力のミヤグチで すご質問ありがとうございました。ちょっとK6のタービンとですねK7の タービンとですと、そもそもその
0:42:35	頭ちょっと、
0:42:36	領域としてどこをこの軸として見込むかとか、あと、その番号もですね。
0:42:42	7号タービンの番号と6号タービンの部材番号が完全にリンクしてるわけ ではないので、ちょっとまずそもそもそのモデル、
0:42:50	の番号から違うよといったところがあればですねそういうところもちよ っと前段として説明をさせていただいた上で、そういう部材の異なる部 分、あと結果としてこういうスケルトン額を使ってるみたいなちょっと紐づ けようかなと思いますので、
0:43:04	ちょっとこの数字もですね同じ部材番号。
0:43:08	なんですけれども、本当に同じ領域のものを設定してるかどうかとい ったところからちょっと解きほぐしたいと思いますので、はい。すみません お願いします補足になります。基本的には協力はほとんど同じ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:20	所見で、同じやり方と同じ条件でやってると思うんですがちょっと支社諸元で、食い違ってるところアノオオウチホウジョウオカベは見方がちょっと違うなっていうのと、あと鉄骨部がやっぱり少し気になった。
0:43:31	なので、今説明していただいたようにですね、ちょっと次、次でも資料作って説明をいただければなと思います。
0:43:43	はい、承知いたしました。
0:43:47	それとですね、あとが、
0:43:51	やっぱり資料3の別紙の1-3、戻っちゃうのかな。
0:44:01	これ椎野市野さん。
0:44:04	ちょっと待ってくださいね。
0:44:13	自分自身がオオツカ。
0:44:16	これはですねちょっと一般論、別紙の1-3、抑えられてます。大丈夫。
0:44:25	これはちょっと一般論なんですけど。
0:44:28	タービンをタテやってのバックの回転ばね考慮しなかったじゃないですか。
0:44:34	リアクターとコントロールのバックの、
0:44:36	回転ばね考慮してますよね。
0:44:39	タービンで考慮しなかったのは、既工認で考慮してなくて、
0:44:44	特に接地率で問題ないから、
0:44:46	何かそのね、考慮した市内のタービンはじゃあなぜ考慮しなかったのかって説明してください。
0:45:01	東京電力の吉永です。
0:45:04	まず、当社の側面回転盤につけるつけないのスタンスなんですけれども、先ほどコメントちょうだいした通り接地率を改善という目的でリアクターとコントロール建屋、
0:45:15	2回転盤につけてます。タービンの方はSsで解析、地震応答解析やっても、接地率100%というような結果になってますのでつけておりません。
0:45:28	あと、李原子炉建屋の補足説明資料の方に、その回転ばね、このタテにつけますよみたいな、
0:45:36	補足は一応まとめております。それでね、
0:45:42	今説明された通り、
0:45:45	回転バレーつけることによって曲げが逃げてくれるので、
0:45:49	店舗基礎スラブに働く転倒モーメントってのは確実に小さくなりますよね。
0:45:55	けども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:57	ウノバックの回転場に入れて曲げを逃がすことによって曲げが急勾配になって、せん断は若干厳しくなることがあるかもしれない。
0:46:07	その辺でどうも出てます。
0:46:28	これのバックつけてやられたってやってることはないですかね。
0:46:33	東京電力の吉永です手持ちでは少し確認してる部分もありまして、回転盤につけても概ね同等。
0:46:41	つけるつけないで、概ね同等の傾向には、
0:46:45	ダテだと思います。そのせん断に対してもう、ほぼ同等だったら、若干やっぱり普通は増えちゃうんだけど、脚部の部分でね。
0:46:55	どうですかね。東京電力吉永です。ちょっと今、手元に結果ありませんので、ちょっと確認したいと思います。何が言いたいかっていうとね、計7の時にそういうふうになんて指摘しておけばよかったなと思ったんだけど。
0:47:09	今回一つのやっぱりKK67 ノーマンテドバックの回転ばねを考慮しましたよっていうのが一つじゃないですか。
0:47:16	やっぱり考慮されてるもの、されてないもの、それはタテ様によって違いますよ。
0:47:23	それは転倒モーメントで浮き上がる厳しいか厳しくないけど決めてますよ。
0:47:27	やっぱりちょっと弱いんですよ。だから、
0:47:30	もしもご検討されているならば、
0:47:33	ドバックの回転を入れたものを入れないもの。
0:47:37	比較っていうのを補足に行って欲しいんですよ。
0:47:42	多分大戸はね、今大したレベルまでいってないから、せん断スケートの中でもほとんどそんなに動かないと思うんだけど、ちょっと多分ご検討されてると思うので、
0:47:53	それに対してはちょっと資料に、
0:47:56	付け加えていただきたい。いかがですか。
0:47:59	東京電力の吉永です。はい補足説明資料の方でつけさせていただきます。
0:48:06	やっぱりそうしといた方が全部がクローズするんでね話があったらぜひお願いします。
0:48:14	それと阿藤別紙の2-8。
0:48:19	これはねどちらかと少しお願い。
0:48:22	僕見なんだけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:26	先ほどのイデ分例数のスケルトンあるじゃないですか。
0:48:31	これはブレースのスケルトンを求めるJ-R呉で定められたやつなんですけど、
0:48:39	これEW方向のブレースがほとんどない部分の、
0:48:45	等価剛性求めなきゃいけないですよ。
0:48:48	それは多分フレームモデルでやって体力か何かクワタつで、
0:48:55	変形と9度の関係。
0:48:58	それから求めてるって考えでいいですか。
0:49:05	東京電力の吉永です確かそのようにフレーム組んでそれから等価剛性出していたと思いますが、ただしてるんですけどね。はい。それで、
0:49:15	それもね、やっぱり、今回、こちらの審査のメンバーも、あと初めてってメンバーもいるので、
0:49:22	これブレースだけではなくてですね、今言ったブレースがないコウ面、
0:49:28	だから、EW方向の中の路面かな。
0:49:31	このフレームモデルから、
0:49:34	等価剛性出してやってると思うんで、そのやり方。
0:49:41	ていうのをどっか行きたいでもいいから、これをナカでもちょっと作ってもらったので、
0:49:45	どういうふうに出されてるんや。
0:49:48	ていうのを、これも説明資料でちょっと加えていただきたいんですがいかがですか。
0:49:56	東京電力多田です。承知いたしました。
0:50:00	大仲参考に記載させていただければですね、ちょっとやっぱり、
0:50:04	EW方向の鉄骨部のね、スケルトンがどうだされてるかっていうのが、特に弱部っていうか何らかの方のラーメン運動されなかったらちょっとどこにもね、
0:50:15	記載がないので今の段階だったんですね。
0:50:18	ですからちょっとそこを補強してください。お願いします。
0:50:22	東京電力江田で承知いたしました。はい。何かちょっといろいろお願いしましたけど私から以上です。
0:50:36	はい。規制庁チギラです。
0:50:39	すいません。では私から、2、3点ちょっと確認させてください。
0:50:44	まず1点目は、資料3のですね、別紙1の2ページ。
0:50:52	これは資料の充実化のお願いになるんですが、この2ポツのところで地震応答解析モデル及び地方の比較というところで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:04	これセンコーの嶋根井ではですねこのタービンの、地震応答解析モデルっていうのが、また軸でですね、なかなか複雑だということですね
0:51:15	それぞれですね知ってのところの流量の区分とかですね剛性、そういったものをここを拾ってますっていうものをですね、この
0:51:25	2 ポツのですね後ろの方に図をですね、つけていただいて、それでちょっと明確にさせていただいてますので、そこをですねちょっと参考にですね、当資料、
0:51:36	充実していただきたいというふうに思いますが、
0:51:40	よろしいでしょうか。
0:51:42	東京電力たんす。
0:51:45	先ほどの皆さんへの回答のご説明にもありましたが、出展領域図については記載させていただければと思います。
0:51:54	はい。よろしく申し上げます。
0:51:57	二つ目が同じく、3 番の資料の別紙の 4 の、
0:52:04	1、
0:52:08	こちらは
0:52:13	ビル検討用の 3 次元の FEM モデルの話で、TB がダイトウタービンたティアの関係がこの別紙の 4-1 の一番下には
0:52:25	そちら部分で、接続する以外は構造的に分離することって、そういうモデル化がされてるんだろうなと思うんですけど、衛藤。
0:52:35	別紙 4-8 のところのですね、具体的にモデル化のところですね TD カドイの話がですね、ちょっとなくてですね。
0:52:45	おそらく構造的には分離されてるんだろうなと思うんですけど、その辺がどのようにモデル化されているのかっていうところをですね、ちょっと高校は説明を追加していただきたいなと思うんですけど。
0:52:59	今、ここで読めるっていうのがあれば、説明していただいてよろしいですか。
0:53:19	東京電力の吉永です TG が今回のモデルではですね失点系、アノクシダん後でモデル化してますんで
0:53:30	別紙 4 の 10 ページ目。
0:53:36	ちょっと印刷が汚くて申し訳ないけど何か真ん中辺に線 1 本立ってるような感じになってると思うんですけども、こんな感じで真ん中に西っての串団子を立ててモデル化してます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:49	ただ、資料上だとですねちょっとそこわかりにくい、わかりにくくなっていますので、そういうふうにモデル化していると、そういったことを追記したいと思います。はい、わかりました。そこは、はい。明確にさせていただいて、
0:54:03	基本的に何かちょっと気になったのは建屋と接続してないですねっていう、多分しないんだろうなとは思ってはいるんですけどその辺がわかるようにしていただければなというふうに思いましたので、よろしくお願いします。はい、承知いたしました。
0:54:18	はい。
0:54:19	3点目がですね同じく③の資料の4-15ページ。
0:54:25	の表の2-5なんですけど、このですねEW方向のばね定数。
0:54:32	だけがですねこれは大田小さくてですね。
0:54:37	これは7号とかでも、
0:54:42	第10-6乗オーダーだったので転記ミスなのかなとか思ったんですけどここって、
0:54:49	ここだけワンオーダー小さいので、理由があるのかどうかちょっと確認したかったんですけど、お願いします。
0:55:27	申し訳ございちょっと即答できませんのですねすみません確認いたします。
0:55:33	そうですねはい。このEW方向のTMSL4.9メーターのばね定数、ここについては転勤水なのか、それであれば計算の方は、
0:55:46	問題ないとかですねその辺りも含めてはい。後日回答確認いただいで回答いただければと思いますので、はい。よろしくお願いします。
0:55:55	はい、承知いたしました。
0:55:57	はい。私から以上です。
0:56:01	はい。規制庁中村です。私からも何点か確認させてください。え一つとですねまず資料の、
0:56:11	3番の別紙の1-1-2。
0:56:16	先ほどおミウラからあったですね、補助金のところなんですけども、私もちょっと同じようにですね、補助金のところ、別紙の11、2から、
0:56:28	1でずっと続いてて比較してて、大分違うなというところは、ちょっと気になっててですね、
0:56:36	1点だけ確認ですけども6号と7号を比較してって、1-2、1-1-2からマイナス5.1と各フロアがあって同じところがあるんですけども、
0:56:49	一番最後別紙116で20.4メーターのフロアの
0:56:55	補助へきが示されてて、
0:56:58	6号の方は、その一つ上、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:01	30.9 メーターというところにも補助機が設置されてるんですけども、この違っているというの、先ほど言ったエンジニアリングジャッジのところの違いで、
0:57:12	6号では30.9メーターのところも補助へき含んでるけどもこっちは含んでないという認識でよろしいですかということまず確認させてください。
0:57:26	東京電力高です。そのご認識の通りで、
0:57:29	襲いございません。
0:57:31	はい、わかりました。では、ちょっとそういうところですね6号と資料とか見比べてたところで、
0:57:37	どういうふうな選定基準でされてるのかなっていうのが、やっぱりちょっと絵が違っていると、何かいいようにとってるんじゃないかとかって、誤解を受けるんでそういうところで、
0:57:48	どういうふうな選定基準なのかなと、それで今、資料でいくと、同じ資料の別紙の1-1-1、
0:58:00	ここのページの一番下の方ですね、下3行のところで、補助金の選定基準の選定にあたっては、原子力施設鉄筋コンクリート構造、
0:58:11	経産省同解説を参考にしたって書かれてるんですけども、
0:58:17	これ実は後から気づいたんですけど、リアクターの時も、言えばよかったのかなと思ったんですけど、リアクターのときも全く同じような文章が書かれてますんで、
0:58:28	先日ですねチギラの方から、その援助、エンドースされてるような資料かどうかっていうところで、言葉をコウ、
0:58:37	選んで欲しいというようなところがあって、今ここの、
0:58:42	明日三行のところで書かれてる。
0:58:45	設定にあたっては参考にしたっていうところが、どうやって決めてるのかなっていうのがちょっと気になったんですね。
0:58:52	あくまでそのエンドースされてない、参考にしたってつ言われちゃうと何かこちらとしては、
0:59:01	エンドウされてないような資料でやったのかなとか、或いは、それをもとにナカマまた別の種、数値基準を決めたとか、なんかそういうところがわからなくなったんですね。そういうところで、
0:59:19	参考にしたっていう言葉はですねちょっと明確に今後ですね、使い分けていただきたいっていうところと、実際ですね
0:59:30	うん。
0:59:31	7号ですね、7号のちょっと資料なんかを確認したところ、実際にはその

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:37	この、
0:59:39	選定基準というのは実際は何だったかな、200 ミリっていうような数字が書かれてるんですけど、
0:59:47	実際には計 7 の時、おそらくこのK6 も変えてないと思うんでそれは 300 ミリとか、他の条件とかでも、選定基準決められてますよね。
0:59:58	だからそういうところをちょっとつけていただいた方が、変なことをしてない。
1:00:05	6 と 7 で変えてないとかですねそういうところがわかると思うんで、そういう資料をつけていただいた方が、よろしいんじゃないかなと思ってんですけども、いかがでしょうか。
1:00:18	東京電力の品川です。衛藤補足説明資料の 1 の別紙 1 の 4 ページ目。
1:00:25	よろしいでしょうか。
1:00:28	1-4-1-4 ですはい。
1:00:32	下に、1 の別紙 1-4 と書かれているページです。
1:00:40	こちらのページ前段の表の備考欄に対応している記載になっておりまして、
1:00:46	③番が、ただ、補助液位に関する説明になっております。
1:00:54	先ほどその 200 ミリですとか、RCMの何かひもづけみたいなところですか、どういうふうを選定するかっていうのをフローにまとめておりまして、
1:01:04	それ各建屋、共通の考え方になっておりますので、それ原子炉建屋の地震応答計算書、別紙 1-3 に、
1:01:13	つけてまして、他のタテについてはそれを読み込むような形で今記載しております。
1:01:21	ここで一応ここで読めるようにははい。なっております。
1:01:26	はい。規制庁仲村ですけどすみません。最後、別紙の 1-3 に書かれてるんですかね、読み込むっていうのは、
1:01:38	はい、原子炉建屋の地震応答計算書に関する補足説明資料の別紙 1-3。
1:01:44	に、地震応答解析モデルにおける、補助平均の評価方法についてという所がありますので、そこにまとめて考え方を記載しております。
1:01:55	わかりましたそれについては理解しましたけど、
1:02:04	これを読めばあれですかね、6 号とも変わる 7 号とも変わらないっていうことが理解できるってことでよろしいですか。はい。東京電力の宮口で

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	す。そうですね 6 号機の原子炉建屋の地震応答計算書の別紙の 1-3、こちら、7 号機と全く同じものをつけさせていただいておまして、
1:02:23	あと設置許可の方でもですね、ほぼ同じ内容のものをお示ししておりますので、そういったところ繋がりが読めるようにはなっております。
1:02:31	ただですね先ほどちょっといただいた話で別紙 1-1-1 のところで、RC N2 を参考にしたというところについては、
1:02:41	中村さんのご指摘をちょっと踏まえますと、もしかしたらですねこの原子炉建屋の地震応答計算書の補足説明資料の別紙 1-3 に基づき、
1:02:52	設定したというふうに書いた方が、
1:02:55	RCMIに基づいて、これを参考にして設定したのかそれとも、別紙 1-3 でちゃんと書いてある東京電力ユニークのルールに基づいてやったのかといったところがちょっと明確になるかなと思ったので、
1:03:07	こちらちょっと原子炉建屋の地震応答計算書にも同じような文言がちょっと入ってるかもしれないので、水平展開して、合わせてちょっと修正したいと思います。
1:03:16	はい。規制庁仲村です。そうですね、ちょっと誤解を受けそうなところがあつたというところでそこについてお任せしますんで、
1:03:26	ちゃんとやっていますよというところをわかるようにですね、記載していただいたらと思いますので、よろしく願います。
1:03:37	はい。
1:03:44	はい承知いたしました。
1:03:46	はい。続けてあと 1 点だけですけども、もうこれもちょっと確認だけですけども資料 3 の別紙の 3-5。
1:04:03	で、
1:04:15	で、とですね。
1:04:17	ここで表 3-2 のところですね、地盤物性の不確かさっていうのが書かれてて、不確かさで、
1:04:26	新規砂層でマイナ、13%、カツラ層で 25、ニシヤマ層で 10 とかっていうふうに書かれてるんですけど、
1:04:34	これちょっと確認なんですけど、特に古屋層で 25%でかなりばらつきが大きいついていうことで出てるんですけども、
1:04:43	この数字自体っていうのは、すべて、その上の文章に少し書かれてるんですけども、すべてその各層ごとに試験結果を、を、
1:04:54	を元にですね設定しているっていう認識でよろしいんですか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:00	はい。東京電力の宮口でございます。そのようなご認識で結構でございます。6号機7号機ではですね小ヤスタ層 25%ぐらいのCIGMAを設定させていただいてますけれども、
1:05:12	この設定にあたってはですね他の号機の小ヤスタ層もすべて調べて、傾向的にはですねほぼほぼ小ヤスタ層についてはですね、松木の傾向はプラント全体で同じような傾向にあるといったところまで、
1:05:23	これは調査としては、確認をしてございます。
1:05:26	はい、わかりました。今の話でいくと、すべてのデータっていうことで、結構大きな多くのデータを使ってるってことだと思んですけど。
1:05:36	だから 25%だけ見るとですね他のと比較してもですけど、結果的に大きいほうが保守的な検討になってるということを理解してるんですけども、
1:05:47	試験数が少ないからばらついてるとかそういうことがないかなというのがちょっと心配だったんで確認しました。
1:05:54	ただあれですよ。これ、このデータ見てもわかるようにニシヤマとか、新規砂層中、割と均質な山ですけど、ばらつきが大きいってことはコウヤスタ層っていうのは何か、
1:06:07	泥とか砂とかそういうのがまざってるのかなっていうのが何か表してるような、ちょっと感想ですけど、そんな感じがしますよね。
1:06:15	東京電力の宮口ですを、ご指摘いただいた通りですね地盤の支持性能の中で詳しくはご紹介差し上げておりますけれども、これ嵯峨層って8層か9層ぐらいにこう細分たちで設定されてまして、
1:06:27	燃性系だったり差し付けとかシルトとか、いろんな層がありますので、ちょっと物性値のばらつきが全体としては出やすいといった層になってございます。
1:06:36	はい。わかりました。
1:06:39	私からは以上です。
1:06:44	はい。規制庁の千明です。他、タービン建物、建屋に関して、
1:06:50	よろしいでしょうか。
1:06:53	はい。では次の説明の方をお願いいたします。
1:07:03	はい、東京電力の関口です。
1:07:06	格納容器逃し装置基礎の地震応答計算書と関連する補足説明資料等について、ご説明させていただきます。
1:07:14	説明資料につきましては、本日配付させていただきました資料No.5 から9が対象でございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:22	資料ナンバー5につきましては、格納容器逃し装置ソウノ10基計算書、
1:07:27	ナンバー6と7につきましては解析コードの概要。
1:07:31	No.8は補足説明資料で、No.9につきましては補足説明資料の比較表となっております。
1:07:38	説明の流れについてですけれども、まずナンバー5の地震応答計算書のご説明をさせていただきます。
1:07:45	次にナンバー9の比較表を用いて、
1:07:51	よろしいか。
1:07:52	はい補足説明資料における説明方針や図書構成の差異をご説明させていただきます。
1:07:59	その後No.8の地震応答計算書補足説明資料について、751のサイト図書の概要と具体的な差異についてご説明差し上げたいと考えてございます。
1:08:10	また補足説明資料のうち、別紙9につきましては、
1:08:14	6億申請で初めてお示しする補足説明資料となりますので、
1:08:19	概要検討方針等を詳細にご説明差し上げたいと考えてございます。説明は30分程度を予定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。
1:08:31	それでは、資料ナンバー5の地震応答計算書をご覧ください。
1:08:36	1ページめくっていただきまして目次となっております。
1:08:40	説明方針と図書構成は7号機と同様でございます。
1:08:44	以降格納容器圧力逃し装置基礎につきましては、装置基礎と略させていただきます。
1:08:50	次に3ページをご覧ください。
1:08:54	装置基礎の構造概要について示してございます。
1:08:58	装置基礎はフィルタベント遮へい器以降、鮭兵器と略させていただきますが、
1:09:03	この遮へい器等基礎スラブで構成され、主要構造が鉄筋コンクリート造のボックス形状の構築物となっております。
1:09:13	遮へい基礎スラブ場所内鋼管コンクリート5Vの主な寸法構造概要は7号機と同様でございます。
1:09:22	なお7号機装置基礎ではニシヤマ層上部に埋戻度と5ヤスタ層があるのに対して、6オク装置基礎では、埋戻し動のみとなっておりますので地層構造に差異がございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:09:35	なお7号機同様に液状化対策として、装置基礎の周辺にセメント系の地盤改良を実施してございます。
1:09:43	続いて9ページ目をご覧ください。
1:09:48	地震応答解析のフローを示してございます。こちらの地震応答解析フローにつきましては、基本方針や入力地震動、解析モデルの設定等といった、全体の解析方針につきましては、7号的同様となっております。
1:10:04	次のページの方に適用規格基準等を示してございますが、そちらについてもナガエ7号機と同様となっております。
1:10:13	次に13ページをご覧ください。
1:10:18	地震応答解析モデルのうち、水平方向モデルについて記載してございます。
1:10:24	解析モデルのモデル化においては、7号機ではCD掘削工法、開削工法のほかに高圧噴射工法を用いてございましたが、
1:10:33	6オク装置基礎では、地盤改良工法として、CD掘削工法開削を用いてございますので、その旨を解析モデルに反映してございます。
1:10:43	AコウCD掘削工法につきましては、CD置換開削工法につきましては、開削時間と略させていただきます。
1:10:52	次のページをご覧ください。
1:10:54	鉛直方向モデルの解析モデルについて記載してございます。
1:10:58	こちらにつきましても7号機からの差異はございません。
1:11:02	続いて15ページ目をご覧ください。
1:11:06	図の3-1に、事情と解析モデルを示してございます。
1:11:11	基本的な構造概要は、67号機で同様となっております。
1:11:16	地盤改良体につきましては、先ほどご説明させていただきましたが、地盤改良工法に仕入れ時間、開削時間を用いてございますので、
1:11:25	その旨を解析モデルに反映してございます。
1:11:29	16ページ目をご覧ください。
1:11:32	16ページ目と17ページに、NSEW鉛直方向の遮へい器及び基礎スラブの地震応答解析モデル諸元と、
1:11:42	杭の断面性能を示してございます。
1:11:45	こちらの表内に記載した数値につきましては、7号機から差異はございません。
1:11:52	18ページ目をご覧ください。
1:11:54	18ページ目から25ページ目に、基準地震動 S_s に対する地盤定数を示してございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:02	こちらの設定方針につきましても7号機同様となっております。
1:12:08	続いて27ページをご覧ください。
1:12:14	27ページの7行目に記載してございますが、入力地震動の算定につきましては、解析コード軽食を用いてございます。
1:12:24	解析コードの概要につきましては、本日配付させていただきました、説明資料No. 6、解析コードの概要に示す通りとなっております。
1:12:34	なおこちらにつきましては先行実績のある解析コードとなっております。
1:12:39	続いて30ページ目をご覧ください。
1:12:43	30ページ目の5行目に記載してございますが、地震応答解析には解析コード添えるプラスを用いてございます。
1:12:52	解析コードの概要につきましては、本日配付させていただきました、説明資料No. 7、解析コードの概要に示す通りとなっております。
1:13:01	こちらにつきましても、先行実績のある解析コードとなっております。
1:13:06	続いて、37ページ目をご覧ください。
1:13:14	材料物性の不確かさを考慮した地震応答解析につきましては、基本ケースの中、応答解析の応答値のいずれかが最大となる地震動に対して実施しております。
1:13:26	7号機では、 S_s1 、2及び8に対して実施してございましたが、
1:13:31	6号機では S_s1S_s に対して実施してございます。
1:13:36	続きまして2段落目の、建屋剛性の説明になりますが、7号機では $\pm 1\sigma$ と記載してございましたが、6号機では、 $\pm \sigma$ と表現の見直しの方行っております。
1:13:50	また表3-18、材料物性の不確かさを考慮する解析ケースについて示してございますが、
1:13:58	こちらの表内の①ケース1、
1:14:01	括弧書きで示してございます。こちら郡モデルと7号機の方を記載してございましたが、
1:14:07	6号機では設工認モデルと表現の見直しのほうを行っております。
1:14:13	続いて39ページをご覧ください。
1:14:17	表の4-1に固有値解析結果を示してございます。
1:14:21	固有値改正結果につきましては、表層地盤の層厚の影響によって、6号機装置基礎の方が7号機宗知久さんに比べ、
1:14:30	他、比較的短周期、比較的短周期の傾向がございまして。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:35	42 ページをご確認ください。42 ページ以降につきましては、応答解析結果を示してございます。
1:14:44	杭の応答軸力につきましては、Ss2 が最大となっておりますが、それ以外の応答につきましては、Ss1 が最大となっております。
1:14:54	以上で、の事情と計算書のご説明がとなります。
1:15:01	続きまして、配付させていただきました、資料ナンバー9 の比較表。
1:15:07	資料ナンバー9 の比較表についてご説明させていただきます。
1:15:13	先ほどタービン建屋の説明でもございましたが、本資料は補足説明資料の説明方針と図書構成の差異についてまとめたものでございます。
1:15:23	縦軸に補足説明資料と項目を示しており、一番右の列の備考欄に、説明方針や図書構成の差異の有無について記載してございます。
1:15:34	1 ページ目のほうをご覧ください。
1:15:36	1 ページ目の別紙 1、地震応答解析における解析モデル及び手法についてですけれども、
1:15:43	解析モデルにつきましては、気相構造、失礼いたしました。地層構造が 7 号機と異なりますので、その旨を解析モデルに反映している等の変更がございしますが、
1:15:55	説明方針や当初構成の差異はございません。
1:15:59	その下のベッショに受注応答解析における耐震駅のせん断スケルトン曲線の設定につきまして、
1:16:05	こちらは 7 号機からの差異はございません。
1:16:10	その下で試算フジモト解析における材料物性の不確かさに関する検討について、
1:16:16	こちらは地層構造が 7 号機から異なっておりますので、材料物性の設定にて、7 号機からの辺と変更はございしますが、
1:16:24	説明方針は、図書構成の差異はございません。
1:16:28	2 ページ目をご覧ください。
1:16:32	別紙 3-1、3-2、3-3 につきましては、説明方針や図書構成に差異はございません。
1:16:40	別紙 4、地盤の液状化を考慮した地震応答解析結果につきましても、7 号機同様に 3 次元 FEM モデルにて地盤の有効応力の変化を考慮した、
1:16:51	地震応答解析を実施してございますので、
1:16:55	説明方針や図書構成に差異はございません。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:00	別紙 4-1、地盤の液状を考慮した杭熟力の評価結果につきましても、説明方針や図書構成に差異はなしとなっております。
1:17:09	別紙 4 の参考資料 1 になりますが、こちらは有効力解析に用いる解析物性値の設定について示している図書となっております。
1:17:20	こちらの記載内容につきましては、7 号機と同様の内容になりますので、7 号機の読み込みとし、表現上の差異として記載をさせていただいてございます。
1:17:31	その下の参考資料 2、有効量解析に用いる解析物性値の適用性について、
1:17:37	参考資料 3、
1:17:39	建物構築物と、屋外重要。
1:17:42	もずく、構造物の耐震評価手法につきましても、7 号機同様のため読み込みとして記載させていただいてございます。
1:17:52	別紙 5、
1:17:54	装置等の不確かさを、
1:17:56	失礼いたしました。装置基礎剛性の不確かさを考慮した地震応答解析結果ですが、
1:18:01	7 号機同様の説明方針図書構成になってございますので、差異の方ございません。
1:18:07	続きまして 4 ページ目をご覧ください。
1:18:11	別紙 6、装置基礎の減衰定数の不確かさを考慮した事象と解析。
1:18:17	別紙 7、
1:18:18	地盤改良体の物性の不確かさを考慮した地震応答解析結果、別紙 8 の隣接建屋の影響を考慮した地震応答解析結果については、
1:18:28	7 号機同様に不確かさを考慮した上で、事情と解析を実施してございますので、説明方針や図書構成の差異はなしとなっております。
1:18:38	5 ページ目の別紙 9、掘削調査完了後の地盤条件を考慮した地震応答解析結果ですが、
1:18:45	こちらは基礎下の掘削調査を実施したため、掘削調査後の地盤を考慮した改正結果について説明する資料でございます。
1:18:54	別紙 9 につきましては、6 号機申請で初めてお示しする説明説明資料となっておりますので、
1:19:01	こちら個別にてご説明をさせていただきます。
1:19:05	比較表の説明は以上となりますが、ナンバー 8 の補足説明資料のご説明にあたって、まずは別紙 1 から 8。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:15	の、7号機の際、
1:19:16	当初の概要の具体的な内容についてご説明した上で、
1:19:20	別紙9につきましては、個別にて、概要検討方針等を詳細にご説明させていただきたいと考えてございます。
1:19:30	続きまして配付させていただきました、資料ナンバー8の補足説明資料をご覧ください。
1:19:39	ナンバー8の表紙の次のページをご覧ください。
1:19:42	本資料につきましては装置基礎の地震応答計算書の記載内容を補足するためのものがございます。
1:19:50	続いて別紙1をご覧ください。
1:19:53	こちらはその時その地震応答解析に用いる解析モデルのモデル化方針を示す資料でございます。
1:19:59	別紙1-1ページをご覧ください。
1:20:04	地震応答解析モデルは、装置基礎場所内コンクリート杭及び地盤との相互作用を考慮した3次元FEMモデルとしており、
1:20:12	これらのモデル化方針は7号機と同様となっております。
1:20:17	別紙1の3ページをご覧ください。
1:20:21	図の1-1に地震応答解析モデルを示してございます。
1:20:25	6億総地層では地盤改良工法として、仕入れ時間開削地下を用いており、ニシヤマ層上部は埋め戻しの日となっておりますので、実情に合わせて解析モデルへ反映してございます。
1:20:39	次ページ以降につきましては、装置基礎及び杭のモデル化。
1:20:44	自分や、
1:20:45	地盤改良体のモデル化について記載をしておりますが、
1:20:50	7号機と同様の方針になってございますので割愛させていただきます。続いて別紙2の、
1:20:57	ご覧ください。
1:21:02	装置基礎の地震応答解析では鉄筋コンクリート造耐震駅の線形性を考慮してございますので、
1:21:10	本資料では鉄筋コンクリート造耐震駅の
1:21:13	せん断スケルトン曲線の設定についてお示しをしております。
1:21:18	別紙2-2をご覧ください。
1:21:22	別紙2の2ページ以降に耐震駅の非線形特性の設定について記載しておりますが、こちらにつきましては7号機同様に、弱4601に基づき、スケートを算定してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:34	続いて、別紙 3 をご覧ください。
1:21:41	こちらは材料物性の不確かさを考慮した解析結果を踏まえ建物構築物の耐震計算書において、材料物性の不確かさを考慮して設定する設計用地震力の検討結果について、
1:21:54	説明する資料でございます。
1:21:56	別紙 3 の 6 ページをご覧ください。
1:22:01	別紙 3 の 6 ページに、不確かさの検討ケースを示してございます。
1:22:06	6 号機装置基礎と 7 号機装置基礎で地層構造が異なっておりますので、地盤剛性の不確かさにあたっては、次、地盤の初期せん断弾性係数及びせん断波速度に対して、
1:22:19	ばらつき $\pm\sigma$ を考慮した設定としてございます。
1:22:23	続いて別紙 3 の 9 ページをご覧ください。
1:22:28	表の 4-2 に雇用地改正結果を示してございますが、各ケースの固有値解析結果につきましては、7 号機と同様の傾向となっております。
1:22:39	別紙 3 の 12 ページをご覧ください。
1:22:43	別紙 3 の 12 ページ以降に各ケースの地震応答解析結果を示してございますが、こちらにつきましても、7 号機と同様の応答傾向となっております。
1:22:55	別紙 3 の 19 ページをご覧ください。
1:23:00	機器配管系評価への影響について示してございますが、こちらにつきましては、も、7 号機同様に、設計用床応答曲線において、
1:23:10	すべての検討ケースの地震応答解析の結果を包絡させることで、材料物性の不確かさを考慮してございます。
1:23:19	続いて別紙 3-1 をご覧ください。
1:23:24	こちらは材料物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動の選定方法及び地震動の選定結果について説明する資料となっております。
1:23:35	別紙 3-1-2 をご覧ください。
1:23:40	材料物性の不確かさを考慮した検討に用いる地震動の選定方法のフローを示してございますが、
1:23:48	こちらは 7 号機と同様の選定方法となっております。別紙 3-1-10 をご覧ください。
1:23:57	選定方法に基づき確認した結果、6 号機装置基礎では、 $Ss1$ 及び $Ss2$ を不確かさ検討に用いる地震動としてございます。
1:24:07	続いて別紙 3-2 をご覧ください。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:12	こちらは装置基礎の地震応答解析において、材料物性の二つが不確かさを考慮した解析結果を示してございます。
1:24:21	別紙 3-2-2 ページ以降に、
1:24:24	基本ケース、地盤剛性 $+\sigma$ 、地盤剛性 $-\sigma$ としたケース、3 ケースの方 改正結果を示してございますが、
1:24:32	冒頭の傾向につきましては、7 号機同様となっております。
1:24:37	続きまして別紙 3-3 をご覧ください。
1:24:44	こちらは埋め戻し度の地盤剛性の不確かさの設定について説明する資料となっております。
1:24:51	別紙 3-3-1 ページ以降になりますが、こちらに埋め戻しの地盤剛性の不確かさの設定について、記載させていただいておりますが、こちらは 7 号機同様に、
1:25:03	地盤の支持性能に関わる基本方針に基づいて設定の方を行ってございます。
1:25:09	続いて別紙 4 をご覧ください。
1:25:14	こちらは装置基礎の液状化対策の有効性を評価することを目的に、一番の有効応力の変化を考慮した地震応答解析を行い、
1:25:23	構造物及び国の応答値への影響結果について説明する資料となっております。
1:25:28	また以降地盤の有効力の変化を考慮した地震応答解析を有効力解析と略させていただきます。
1:25:36	別紙 4-3 ページ、4-3 ページをご覧ください。
1:25:40	有効力解析フローと解析方法の方を示してございますが、
1:25:45	これらにつきましては 7 号機同様となっております。
1:25:49	続いて別紙 4-7 をご覧ください。
1:25:55	有効力解析に用いる時、入力地震動につきましては構造物への影響の大きい波としてSs1Ss2を選定してございます。
1:26:05	解析方法につきましても、
1:26:08	失礼いたします。解析方法につきましては、7 号機同様に、最大過剰間隙水圧比、こちらは 95%を超えた場合に液状化が生じていると判断してございます。
1:26:20	なお有効量解析には先行実績のある解析コードそういうプラスのほうを用いてございます。
1:26:26	続いて、4-8 ページ、4-8 ページをご覧ください。
1:26:32	別紙 4-8 ページ以降に改正結果を示してございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:36	解析結果から加速度の減少に伴って慣性力が減少することで、変位を含むすべての土地が減少していることを確認してございます。
1:26:45	資料の 19 ページをご覧ください。
1:26:50	図の 4-11 に、最大化定数、過剰間隙水圧のコンター図を示してございますが、こちらから久次米に接する埋め戻しの一部で最大過剰間隙水圧比、こちらが 95%を超えており、
1:27:04	部分的に液状化が生じていると判断してございます。
1:27:07	こちらにつきましては 7 号機同様に、杭の周面摩擦力を考慮しない場合の、許容限界を用いた杭熱力の評価を実施しております。
1:27:17	評価結果につきましては別紙 4-1 の方で示してございます。
1:27:22	続きまして別紙 4-31 をご覧ください。
1:27:26	機器配管系に比木配管系評価に与える影響について示してございますが、
1:27:32	地盤の有効力の変化を考慮しましても、耐震評価に影響を与えないことを、7 号機同様に確認してございます。
1:27:40	他の号機同様に、有効応力解析結果が、全応力解析結果を下回る傾向であることを確認してございます。
1:27:48	続いて参考資料 123 につきましては 7 号機の読み込みとなっておりますので割愛とさせていただきます。
1:27:57	続きまして別紙 4-1 をご覧ください。
1:28:01	本資料につきましては先ほどご説明いたしました別紙 4、地盤の液状化を考慮した地震応答解析結果にて、9 日目に接する埋め戻しので、部分的に液状化が生じておりましたので、
1:28:14	埋戻し動における杭の周面摩擦力を考慮しない場合の、
1:28:18	許容限界を設定し、
1:28:20	地盤の液状化を考慮した地震応答解析より求めた杭熱力を評価したものでございます。
1:28:29	算定方法につきましては 7 号機からの差異はございません。
1:28:33	別紙 4-1-4 をご覧ください。
1:28:36	評価結果を示してございますが、こちらの評価結果から 7 号機同様に発生する杭の熱力が許容限界を各超えないことを確認しております。
1:28:47	続いて別紙 5 をご覧ください。
1:28:51	こちらは装置基礎剛性の不確かさを考慮した場合の影響検討結果を説明する資料となっております。
1:28:57	別紙 5-2 をご覧ください。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:01	7号機同様に不確かさ強度につきましては設計基準強度の1.4倍として設定してございます。
1:29:08	入力地震動につきましては、静水位置を選定してございます。
1:29:13	別紙5-3ページをご覧ください。
1:29:16	固有値解析結果を示してございますが、7号機同様の傾向であることを確認してございます。
1:29:23	別紙5-6ページをご覧ください。
1:29:26	Aコウ西本解析結果を示してございます。
1:29:30	別紙5-16で示しております、最大応答せん断力、こちらが、
1:29:36	パラスターケース包絡値、こちら部分的には持っておりますので、耐震評価に与える影響について確認を実施してございます。
1:29:45	別紙5-17をご覧ください。
1:29:49	タイヘキ杭基礎スラブに対して、格納容器圧力逃し装置基礎の耐震性についての計算書に示す表現回答を超えないことから、
1:29:58	耐震評価に影響を与えることを確認してございます。
1:30:02	別紙5-20をご確認ください。
1:30:05	機器配管系に、
1:30:07	評価に与える影響につきましても、装置基礎剛性の不確かさを考慮しても、耐震評価に影響を与えないことを確認してございます。
1:30:16	続きまして別紙6をご覧ください。
1:30:20	こちらは装置基礎の減衰定数の不確かさを考慮した場合の影響検討結果を説明する資料となります。
1:30:27	別紙6-2をご覧ください。
1:30:31	7号機同様に、鉄筋コンクリート造部の減衰定数の不確かさとして3%を設定してございます。
1:30:38	入力地震動につきましてはSs1を設定してございます。
1:30:42	別紙6-3ページをご覧ください。
1:30:47	別紙6-3ページ以降に事象とか井清結果を示してございますが、減衰定数の不確かさを考慮した最大応答値が、
1:30:56	6-8ページの杭の最大失礼いたしました
1:31:00	失礼いたします。減衰定数のフタツカさを考慮した最大応答値が、部分的にですねパラスター包絡値を上回っておりますので、耐震評価に与える影響について確認を実施してございます。
1:31:13	別紙の別紙6の14ページをご覧ください。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:18	耐収益杭基礎スラブに際して、格納容器圧力逃し装置基礎の耐震性についての計算書に示す不要限界等を超えないことから、
1:31:28	耐震評価に影響を与えることを確認してございます。
1:31:31	別紙 6 の 16 をご覧ください。
1:31:35	機器配管系に与える影響につきましても、装置基礎の減衰定数の不確かさを考慮しましても、耐震評価に影響を与えないことを、7 号機同様に確認してございます。
1:31:47	続きまして別紙 7 をご覧ください。
1:31:52	こちらは地盤改良タイムステージの不確かさを考慮した営業検討結果を説明する資料となっております。
1:31:59	別紙 7-2 をご覧ください。
1:32:02	表 2-1 に、地盤改良体の物性値の不確かさの検討の考え方を示してございます。
1:32:09	地盤改良体の施設の二つを考慮した解析物性値につきましては、地盤改良体の事後調査結果に基づき設定をしてございます。
1:32:18	別紙 7-3 をご覧ください。
1:32:21	入力地震動について記載してございますが、こちらでも $Ss1$ の方を選定してございます。
1:32:28	別紙 7-4 をご覧ください。
1:32:33	固有値改正結果を示してございますが、7 号機同様の傾向であることを確認してございます。
1:32:39	別紙 7-7 をご覧ください。
1:32:43	別紙 7-7 ページ以降に地震応答解析結果を示してございます。
1:32:48	別紙 7-14 ページで示しておりますケース 7 の最大曲げモーメントがパラスタ一包絡値を部分的に上回っていますので、
1:32:57	耐震評価に与える影響を、次項で確認した後、確認しております。
1:33:02	別紙 7-18 をご覧ください。
1:33:06	耐震低い基礎スラブに対して、
1:33:09	格納容器圧力逃し装置基礎の耐震性についての計算書に示す許容限界等を超えないことから、
1:33:15	耐震評価に影響を与え、与えないことを確認してございます。
1:33:19	別紙 7-20 をご覧ください。
1:33:23	機器配管系に、
1:33:25	与える表、影響につきましてもつきましては地盤改良体の不確かさを考慮しましても、耐震評価に影響を与えないことを確認してございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:35	続いて別紙 8 をご覧ください。
1:33:38	こちらの隣接建屋の影響を考慮した影響検討結果を説明する資料となっております。
1:33:44	別紙 8-3 をご覧ください。
1:33:49	評価フローを示してございますが、こちらは 7 号機からの差異はございません。
1:33:54	別紙 8-4 をご覧ください。
1:33:58	7 号機同様に装置基礎に隣接する建屋の中で最も規模が大きい原子炉建屋に対して、二次元FEMモデルにて影響検討を実施してございます。
1:34:08	別紙 8-5 をご覧ください。
1:34:11	解析係数につきましては 7 号機同様に、面接飛行量と隣接考慮のふたケースとしてございます。
1:34:19	別紙 8-7 ページをご覧ください。
1:34:23	別紙は 8-7 ページ以降に、建屋杭とのモデル化についてお示してございますがこちらは 7 号機同様となっております。
1:34:31	別紙 8-12 をご覧ください。
1:34:35	入力地震動につきましては、周期体の応答が大きく、耐震評価への影響も大きい、弾性設計用地震動SD-1 を用いてございます。
1:34:45	別紙 8-13 をご覧ください。
1:34:48	別紙 8-13 以降に、事象と解析結果を示してございます。
1:34:54	応答比から 7 号機同様に、隣接建屋の影響によって応答が増幅または減少する傾向があることを確認してございます。
1:35:02	別紙 8-18 をご覧ください。
1:35:06	耐震評価、装置基礎の耐震評価に与える影響について示してございますが、
1:35:11	応答比を考慮した評価結果が許容限界を下回ることから、隣接建屋の影響を考慮しましても、装置基礎の耐震評価に影響を与えることを確認してございます。
1:35:21	別紙 8-19 をご覧ください。
1:35:27	機器配管系の耐震評価について示してございますが、こちらも 7 号機同様に影響がないことを確認しております。
1:35:35	続きまして別紙 9 の方をご覧ください。
1:35:42	2 ページめくっていただきまして、別紙 9-1 をご覧ください。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
 発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:48	本資料につきましては装置基礎の地震応答計算書では基礎スラブ直下地盤を埋め戻し動として、事象と解析を実施しておりますが、
1:35:57	実測実施工では基礎スラブ直下地盤を掘削して、建設残置物を撤去した後に、埋め戻す材料を用いて掘削範囲を埋め戻しておりますので、
1:36:07	そちらの埋め戻し材料を考慮した場合の影響検討について示してございます。
1:36:13	別紙 9-2 をご覧ください。
1:36:16	埋め戻し材料の施工範囲を図 2-1 に示しております。
1:36:21	メモ野瀬材料につきましては、図中で青色で示しておりますが、
1:36:26	装置基礎の基礎スラブ直下に施工してございます。
1:36:30	埋め戻す材料には、セメント系の地盤改良体、
1:36:35	開削地下の方を採用してございます。
1:36:38	初期地盤の物性値せん断弾性係数及び減衰定数のひずみ造成を用いた 1 次元波動論でられる等価物性値を設定してございます。
1:36:48	なお埋め戻し材料に採用する対策地区につきましては、
1:36:51	液状化対策として施工しております、開削置換と同じ地盤改良工法となっております。
1:36:58	別紙 9-3 をご覧ください。
1:37:02	検討ケースにつきましては、解析物性値を埋め戻し度とした基本ケース。
1:37:08	M野瀬材料を考慮した地盤改良体の営業検討ケースのふたケースを実施してございます。
1:37:16	入力地震動につきましては先行と同様に、
1:37:19	全周期体の応答が大きく、耐震評価への影響が最も大きい地震動Ss1を選定してございます。
1:37:26	別紙 9-4 をご覧ください。
1:37:29	検討結果の方を示してございます。
1:37:33	以降、表、図中の中に、基本ケースをケース 1、埋戻材料を考慮した珪藻係数 10 として示してございます。
1:37:42	表 3-1 に固有値解析結果を示しております。
1:37:46	上戻せ材料を考慮したケース 10 の固有振動数につきましては、
1:37:51	NS方向EW方向で、基本ケースより、固有振動数が高い傾向にあることを確認しております。
1:37:58	続いて、次のですね別紙 9-5、9-6 ページには水平方向、鉛直方向の固有振動モードの六つの方を示しております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:08	続いて別紙 9-7 をご覧ください。
1:38:13	地震応答解析結果を示しております。
1:38:17	別紙 9-10 をご覧ください。
1:38:20	別紙 9 の中に示しております。
1:38:23	鉛直方向の最大応答加速度応答変位大戸塾力は、応答比 1.1、失礼いたしました大戸比 1.01 と、
1:38:32	ほぼ同等であることを確認してございますが、部分的にケース中の最大応答値が、ケース 1 の最大の中、応答値を上回っておりますので、
1:38:41	別紙 9-14 に示しました、示しておりますが、
1:38:45	こちらでパラスタケースの包絡値との比較をしてございます。
1:38:51	別紙 9-14 ページに示す通りパラスタケース包絡所の比較では、応答値の方を下回っていることを確認してございます。
1:39:00	続いて別紙 9-16 ページをご覧ください。
1:39:05	別紙 9 の 16 ページと 9-17 ページに、埋め戻し材料を考慮した、Ss1 による地震応答解析結果のうち、
1:39:13	杭の最大応答値について示してございます。
1:39:17	別紙発生いたしました図の 3-28、3-29 の杭の応答値から、
1:39:23	杭の曲げモーメント及びせん断力はケース 1 及びケース 10 のいずれも、グー各部で杭の杭等で、失礼いたしました。各部の杭等で最大となることから、
1:39:34	杭の最大応答値は、クリタにて評価をし、実施しております。
1:39:40	別紙 9-18 ページをご覧ください。
1:39:46	別紙 9-18 ページに区イトウの最大応答値と、
1:39:49	別紙 9-19 になりますが、ケース 10 の 9 イトウの最大応答値とパラスタケース包絡値の比較を示してございます。
1:39:58	表 3-2 及び表 3-3 からケース 10-最大応答値は、
1:40:03	ケース 1 の最大応答値及びパラスタケース包絡値を下回っていることを確認しております。
1:40:09	別紙 9-2 条をご覧ください。
1:40:15	機器配管系評価に与える影響について示しておりますが、埋戻し材料を考慮しましても機器配管系の耐震評価に影響を与えないことを確認してございます。
1:40:27	9-23 ページをご覧ください。
1:40:30	最後にまとめを示してございますが、
1:40:33	ちょっと読み、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:36	最後にまとめの方を示してございます。M埋戻材料を考慮したモデルを用いた地震応答解析結果から、基本ケース及びパラスタケースによる確証統治を用いて、
1:40:47	建物構築物及び機器配管系の設計の地震力を設定し、
1:40:52	構造強度及び機能維持の確認を行うことは保守的な評価になること。
1:40:56	また機器配管系の耐震評価に影響を与えないことを確認してございます。
1:41:02	以上で説明の方終わりと終了とさせていただきます。
1:41:10	はい、規制庁チギラです。それでは、今、説明がありましたフィルター、弁当基礎関係で隔離する方、
1:41:18	お願いします。
1:41:22	あ、え、
1:41:24	規制庁の江寄ですけど、今ですね、今し方説明があった、
1:41:31	⑧、8番の資料の別紙9ですか。
1:41:35	それと、一番最初に説明があった、
1:41:39	5番目の資料ですね。要は、
1:41:43	6-2-2の13のあれですね、地震応答計算書の方。
1:41:48	17ページとかあの辺なんですけど、
1:41:51	それと出ている物性値。
1:41:54	ありますよね
1:41:55	これと、例えば、別紙、こっちの補足説明資料の別紙9-3と見たときに、ちょっとね、この物性値がいろいろ出てきているんだけど何の説明がないんで、
1:42:06	混乱を招いちゃいますアノな付議一応審査した立場と言ったとしても、
1:42:12	もう何年もしばらくしてみると、何をやっていたのかが全然わかんなくなってしまうと長くも当初見ていかないとわかんなくなっちゃうってような状況があって、
1:42:21	それでね。
1:42:23	そもそもあそこの、
1:42:28	何だっけ、これテラノ建設建設残置物撤去した時の話があって、その時にもうしおり括り事項的なものがあるって、それは何かというと、
1:42:40	いわゆるどんな、いわゆるですねこの別紙9-2、2、2ページ見ていただくと、要はあれですよ赤いところの、
1:42:48	時間のところだったかな。じゃなくてどっちだっけか。
1:42:53	青井さんで掘って聞いたのは、時間のCDの方から発端でしたっけ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:00	東側の方からは、
1:43:02	下の方ですよ黄色いところからおったんですよ。そうですね。
1:43:06	そこから掘って行って、下を全部残置物取るために、全部、
1:43:12	抜いちゃったんですよ。
1:43:13	なお、
1:43:14	多分これだと 1.8 メーターぐらいのところ。
1:43:18	基礎版下の 1.8 メーターどこを全部綺麗にとって、
1:43:21	そのあとあれですよ。セメント改良したものを中に充填した。
1:43:28	という話だと思うんですけど。
1:43:30	そういった話も含めていわゆるですね、
1:43:34	瀬古呉。
1:43:36	工法や施工手順、いわゆる今の
1:43:41	級の支給の 2 の都度、
1:43:43	もう状態。
1:43:45	にした状態での、どのように施工してこうなったのか。
1:43:49	ていう、いわゆる残置物を取ったという話もちょうと書いてますので、そういった経緯と、等どのようにしたらこうなったのかっていう話があると思うんですよ。
1:43:59	いわゆる、
1:44:01	その話をした上で、あと、こっちの、
1:44:07	添付資料の方、
1:44:09	方に関して言うと、何でその今 as-is ではなくて、こっちの方にしたってこっちの方が多分安全体からの数字が出てるかなと思うんですけど。
1:44:18	そういった経緯もちょうと含めて、
1:44:22	わかるようにしてもらわないと、すごく頭がこんがらがってしまうってのちよつとあってですね、まずはそのね、
1:44:29	残置物の建設残置物をとった話との、
1:44:32	絡み。
1:44:34	経緯で今設計としての位置付けはどのような位置付けのものを設計しているのかっていうことをわかるようにした上で、実際、
1:44:42	添付補足説明資料の中で、どのような施工方法でリカバリーしたのかということを書いていただいて、そのリカバリーした状況を、
1:44:53	至急で計算してるんですよっていう位置付けがわかるようにしていただいて、それをちよつと紐付けひもづけるような形でわかるようにしていただきたいっていうのが一つ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:02	それで、
1:45:04	当然ですね
1:45:08	地盤改良体のこの
1:45:10	支給の3に出ている。
1:45:12	数値比表の2-3とか2-2に出てる数値は、
1:45:17	どのように求めたんですかっていうのは、多分、どこに書いたらいいの かっていうことなんですねこれはまあ、
1:45:24	実際の設計には使っていないので比較資料しか使っていないのでここ の中で書くしかないのかなと思うんですよね。何だっけ地盤の、
1:45:34	新制度の基本方針までいっちゃうと話がややこしくなってしまうので、
1:45:37	ここで止めておくのかなと思うんですがその辺の整理の仕方、
1:45:41	多分試験されてますよねそうすると試験の中で多分、
1:45:47	その設計値の設定の根拠とか妥当性を説明して欲しいんですよで設計 の根拠ってのは多分、
1:45:54	サンプリング位置だとかの話ですよ。
1:45:58	頻度とか数量とか、
1:46:00	ありますよね。
1:46:03	妥当性っていうと多分その各種試験方法って、RISにのっとった試験を やってると思うんですよそれが多分、
1:46:09	妥当性だと思うんですよねそういった説明をしていて、いわゆる石渡委 員のハザードカードで説明したと、東リと同じような形の、
1:46:17	こっちでちょっと整理していただいて、
1:46:19	我々の方ではその辺が妥当性が、創生適合性の判断がつかれるつけら れるような資料をつけていただきたいというのが、
1:46:27	2点目です。
1:46:28	3点目が、
1:46:31	これって施工後の品質確認試験との取り扱いはどうすんですかって話 があって、多分これって自己評価にするんですよねもう工認でわかって いて計算に使ってるから、
1:46:44	先送りしちゃうと、使用前検査受けなきゃいけないので、
1:46:48	それなりの何かどこかにわかるような形、火、要はシモノ使用前検査 で、
1:46:55	受けられる指標とか、何を比較してやるのかっていうことを、多分女川と かはやってると思うんですよね。
1:47:05	ベシアのシマでは、あそこはもう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:09	ハザード呉の支局のハタのところでも、彼ら制限しちゃったんで、設工認 の中で、
1:47:16	品質確認試験の結果を示しますってということで、
1:47:19	やってやってるんですがちょっとそこは、
1:47:22	許可の段階で、何も
1:47:26	シバの方は、
1:47:28	なんだんアノし、配合試験もやってなかったんで、
1:47:32	何ら根拠が全くないという状況だったんで、そのあたりちょっと厳しいこ とを言われてそうなっちゃっていて、女川の方は、逆に言うと、
1:47:41	品質確認、ごめんなさい、試験練りとかさうしうわやっていてその試験で すよね。
1:47:47	配合試験の結果で出てきた。
1:47:50	数値が出ているので、それは構わないということでただ、
1:47:54	確認試験は、施行後の確認試験を確認しようってことになっていて、そ れは使用前検査なんで、
1:48:00	主要なお客さんで受けるっていうことになってて使用前検査で、
1:48:04	何見るんですかっていう、
1:48:06	全部ね、やるわけにいかないじゃないですか、動的試験だとか、
1:48:11	何をやるんですけど、一軸だとかでも 35 ぐらい上げないと、強度だから 見ないといけないよねとか、いろいろあったりして、
1:48:21	この場合はどうするかっていうのもあるので、例えばPS計装とか、もう 次、
1:48:27	やってやるのかどうか、そこまでやるっていうのも、場所にもあるんでそ れを参考にしてもらうことはあるんですけど、今回どうするかなんですよ ね。7号機のとくどうしていたかっていうと、僕発想としては、
1:48:39	品質確認試験についてって書いてあって、そのあとに、確か
1:48:45	あれですよえうん。
1:48:47	施工後の品質確認試験って全部じゃなかったって記憶してるんですけ ど。
1:48:55	だけ自己評価っていう形でな、確か。
1:48:59	載せていたと思うんですよ。
1:49:02	常盤の名前は、
1:49:05	白沢新書新設地震で地盤改良体の事故調査結果ということで、
1:49:11	確か野瀬でいて、
1:49:13	前回後でまた話はしますが 10 月 20 日の 2 日、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:19	コメントなコメントじゃないけど一応備忘録的に残してると思うんですが、復活してさしてくれっていう。
1:49:25	あれを見ることによって、使用前検査見なくても、定期確認しなくても、
1:49:30	一応、
1:49:32	建設後の物性値は各設計値、
1:49:35	と整合しているっていうか、一応安全側のものを一応作られているという、
1:49:41	要は設計条件を満足するような改良体が作られてるっていう確認ができていますね位置付けとしては、
1:49:48	あそこは多分はっきり明確にしないんだよ、谷さんが、あまりそこを今回、
1:49:54	明確化した方が僕はいいいんじゃないかなと思っていて、ただそう言っても間に合わないものありますよね。今の状況ってよくわからないんですけど。
1:50:04	多分この9別紙9-2のところって、もうこれって、際限物性値が決まっているから、施工終わってるんですか、復旧はできてない。
1:50:17	はい、飛び出る放棄でございますご指摘ありがとうございます点でございますがここのですね状況をお伝えいたしますと今掘削を進めているところでございまして、これから
1:50:30	この地盤改良体を流し込む
1:50:34	ところでございますので、
1:50:36	2点目3点目のご指摘いただきましたこの改良で新しく流し込むものですが、こちらの別紙9-2を見ていただきますと、
1:50:47	平面図で上側に赤い改良体がございます。で、真ん中に青い改良体今回のものがございますが、これが下に埋めますよというものでございます。
1:50:57	こちらはですね全く同じものをざぶ性のものを使ってございまして、
1:51:05	後から言おうと思ったんだけど、全く一緒になるってことはまずありえないので、地盤のものって、
1:51:13	セメントだったらわかるんだけどまだね、それも一緒にならないと思うんだけど、多分少なくとも相馬刀禰。
1:51:19	おんなじものじゃなくて、配合が一緒なもんだと思うんだよな。
1:51:22	配合が1度整地が一緒になるとは限らないので、そういった話だからそうなるように配合配合を一緒のものを入れますって話でねそう言ったことも、書いて欲しいんですよ。うん。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:34	実際にどうなったから、嘘西郷一緒だからといって、一緒になってるかわからないので、それはそこをサンプリングして、
1:51:43	Fコア抜きではなくて多分抜き取りですかなんかだと思んですけど、しながらやられるんだと思んですけどそういった計画だとか、それでちゃんと最初品質確認をしますよってというような話。
1:51:53	もう一度方針とか上げていただいて、
1:51:57	それを大体その設計値が多分キョウチだから、その設計値になるようにでも設計値もたくさんコガ+費なんかわかるわけないと思うんで、
1:52:05	内在を図って、何何の試験をしてどのぐらいの頻度でやって確認するの かで全部、これ総量は少ないでしょうけど、特に数量が多い場合は、
1:52:15	多分、代表する試験方法で代表しないと、全部そんな3軸試験だとか やってられないと思うので、そういう、
1:52:23	ただ、
1:52:24	例えば普通じゃ多分1時クラタ分級だと思んですけど、9度3軸の関 係性を決めた上で、
1:52:31	次の1イクノ9をショートし用地にして見ていくんだとか何か方法、方法 ありますよね。
1:52:37	そういった話も含めて、どういった品質確認をして、じゃあ検査部隊を何 を、
1:52:44	多分書類審査がどうなると思んですけど、それ何を見たらいいのかわ かっているのがわかるように、まではちょっと仕立てて欲しいんですね。う ん。
1:52:52	そうなくて工認通りって言えないじゃないですか。
1:52:55	でないとまた、警察部隊からの方から、コウに差し戻されてもちょっと困 っちゃうんで、認可が終わった後になっちゃういますんで、だからその辺 は今のうち、
1:53:04	日々検査があったとしても困らないようにしておきたいと思うんで、その 辺はちょっと整理していただきたいと思いますが、いかがですか。
1:53:12	はい。トーエルの沖でございます承知いたしましたこちらの品質管理に つきましても地盤の申請のを参考にしてですね、その整理しております のでこちらの方にわかるように、
1:53:23	記載をしたいと思います。等ですね、1点目ご指摘いただきました。
1:53:28	この経緯ですとか、施工手順について申し訳ありませんこちら辺記載が なくてですね、わかりづらい資料となっておりますが、簡単にご説明 差し上げますと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:40	別紙 9-2 を見ていただきますと、この金。
1:53:46	赤、黄色い部分の
1:53:49	置換CD置換の部分でございますが、こちらの神野を下側というんですかね東側の部分の方から掘削を進めてございます。で、地盤改良を、2番から対応。
1:54:01	壊して中に入ってくわけですけども、そのセメント改良体と言われていた建設残置物につきましては、この左端というんですかね、の杭の一部にかかっていただけでして、
1:54:16	それを取り除いたと、そこだけ取り除くとですね、そこをまた埋めてしまうと同じようになってしまいますので、対象になるように、すべて下を取り除いたという経緯がございます。こちらですね、わかるように、
1:54:30	資料こちらの歩数参考とするかはあれですが、わかるように記載したいと思えます。併せてですね、その後の施工についても、こちらの中でご説明できるようにしたいと考えてございます。以上でございます。
1:54:57	あとですねもう、あとですねこれどっちかっての建築土木の方と協力して欲しいんですけど、地盤の申請のの図書の中にも、
1:55:08	の中で、ちょっと見比べてみたんですね。やっぱり地盤の申請の方の当初を見てもちょっとわからない。
1:55:16	ところがあって、例えば 4-2-1-3 の地盤の支持性能の基本方針で今日はないですけど、
1:55:24	その中でですねそれとあと、補足説明資料ですね。
1:55:29	これがKK6 の補足。
1:55:33	ハイフォンの 024-1 回 0 ってやつですけど。
1:55:38	そうした。
1:55:40	そんな中にもですね、
1:55:42	いわゆる
1:55:44	弛緩し、括弧CDと違う。
1:55:47	対策って表記があるんですけど。
1:55:49	特に
1:55:52	さっきの基本方針の方、
1:55:56	見ると、
1:55:57	そう。
1:55:58	何か、
1:56:00	書くわけでCDってんないんですよ。ただ、時間でしか書いてなくて、そうすると片っぱの数字しか書いてないんですよ。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:56:10	そうそう。
1:56:11	なんで、
1:56:12	補足説明資料の中に入ってきた、書いてあるんだよね。
1:56:16	なんでそこ野瀬ちょっと整合性がちょっとよくわからないんで、
1:56:20	ちょっと普通それは土木の方が作られてるのかもしれないですけど建築の方をちょっと再度確認してもらって、例えば今で言うと 12 ページですね、
1:56:29	12 ページと 17 ページに
1:56:33	どっちかって書いてあるんで気持ちの方でそこに、
1:56:36	2 種類の置換コウホデ括弧CDとか括弧解釈ってのあるはずなんだけどそれが記載されてないんで、
1:56:45	こっちの経産省とこっちの紐付け見ようとすると、何で不一致してるんだろうとでも、数字だけ見ると、どっちかなんですよね確か。うん。
1:56:55	値が、この辺がよくわからないっていうのがあるので、
1:56:59	うん。
1:57:01	この辺はちょっとまたもしこれが正しいのであれば、何までそうなってるのか説明いただきたいんで、また、
1:57:08	基本方針案を説明、コメント出てますんで、その時の改定の時にはまた改めて説明いただきたい。
1:57:16	というのが一つです。
1:57:20	それで、
1:57:21	さっきちょっと言いわけなんですけど、その 10 月 20 日に、
1:57:27	うん。
1:57:28	次坂野CSOの補足説明資料ですね、KK6 の補足の図、iPhone024-1 の会の 0 ですね。
1:57:38	これのナカノんと、うん。同点です。
1:57:41	3 章。
1:57:43	というのがさっき言った新設後、
1:57:45	新設地盤改良体の事後
1:57:48	調査結果についてっていうのが、今回 7 号機と一緒になんではしよりますってか省略しますというような状態ってるんだけどそこはちょっと中身を、
1:57:58	がわからなくなってしまう経緯が全部わかんなくなっちゃうんで、書いてください、追記してください、追加してくださいとそのままフルパッケージっていうコメントを出しています。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:58:07	もう一度ねよく見てみると、
1:58:10	熱融とその自己評価、
1:58:13	実際は、
1:58:15	その農協当時のとき見ると、取水槽だったり、埋まるだけの話で、GTGのきょだとか、例えばコウ、
1:58:24	アオキの方もそうなんだけど、いわゆる、
1:58:27	何だっけ。
1:58:30	FE基礎の改良体のやつないんですよね。
1:58:36	その当時は多分できてないから、いたし方ないって確かで。
1:58:41	全部できてるわけではでき、できてるもので図られてるものはもう購入中で何か何とかされますっていうのが、松本君の話だったという記憶があって、
1:58:51	それは致し方ないよねって話で、そうなってますんで今後今の現時点で、
1:58:57	例えばそういったもので、すでに
1:58:59	そう。
1:59:01	建設残置物を取ったやつは別として、
1:59:05	その前の今工認図書のベースになってるものはある程度もう施行あって、もう3年以上経って近いから経ってるから、えられてますよね確認し、品質確認試験は、
1:59:15	それやっていてその自己評価というものに追加できるものは、
1:59:20	新たに追加して欲しいなと思うんですがいかがでしょうか。
1:59:31	はい。東京電力の宮口です。ご指摘ありがとうございました。この件先週、先週ですかね、10月20日の地盤の支持性能の中でもいただいておまして、一部、大物搬入建屋とかですね、
1:59:44	ちょっとこの設工認の期間中には、工事が終わらないものについては、扱いは相談させていただこうかなと思っておりますが、使用前に送るものと、この設購入の中で、もう品質まで含めてご説明差し上げるもの。
1:59:56	ここですねちょっと適切なタイミングで土木が撤去してご説明差し上げようと、我々動いておりますので、F-V側もですねちょっと工事の時期によってはですね、間に合うか間に合わないかといったところはございますけれども同じ動きで進めさせていただきたいと思っております。
2:00:12	規制庁の土岐ですいわゆる設工認の中で確認できて、シューマー検査送りしなくていいものと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:22	しなきゃいけないものってのはちょっと選別できるようにしておかないと多分混乱招くなと思ってまして、その辺がわかるように、記載はまた同じようにでき、追記できるものは追加していただきたいというのがその趣旨。
2:00:33	なっています。また会議があって、数値に疑義があるとかそういうことではなくて、
2:00:38	そその将来の検査も含めた便宜性から考えたらちょっとあった方がお互いに、
2:00:43	いいんではないかと。
2:00:45	思いますんでそれは追加してください。それとともにですねこれって、今、
2:00:51	5.3 コウノ、いわゆる、
2:00:55	新設改良体の話をさしていただきましたけど、おんなじものでやっぱり4点。
2:01:04	4 ポツ 2 ポツ 2-1、室内試験及びgage試験っていうタイトルが、ほとんど7億あって、
2:01:12	それはその既設のものに関して同じように、
2:01:16	設計時と、実際の、もうそれはもうすでにもう確認試験が終わってましたんで、全部フルパッケージで書いてあるんですねそれはもう追加がないと思うんですけど、
2:01:26	そっちの方も復活させといていただければ、いわゆる確認試験が終わったところがどこからどこまでかかって6億から7号機も含めて、
2:01:35	というのがわかるようになると思うんで、そこを、それはもうただ追加するだけだと思いますんで、
2:01:40	それも追加していただければ、7億まで全部見なくても、基本的に
2:01:46	その審査等の中で、一応終わったものが何なんで、これからやらなきゃいけないものは、今後どういう仕組みでやらなきゃいけないね、確認していかな。後段規制も含めて確認しなきゃいけないのかっていうような話ができると思いますんで、そこはちょっと協力していただきたいと思います。
2:02:04	はい。東京電力の宮口です。コメントありがとうございます。10月の20日の地盤の支持性能のヒアリングの中でもですね、ちょっとこう、7号機の方に読みに行く箇所が多くて、
2:02:15	ちょっと資料として、一貫通貫説明性が悪いなといったところをご指摘いただいておりますので、幾つかそういったところをちゃんと記載を戻す

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	と、フルパッケージ7号と同じ記者にはなりますけれども書くといったところはですね、
2:02:27	僕方とちょっと調整しておりますので、今ご指摘いただいた4.4.2のところの室内試験の関係のところでもありますね、その旨同クラタと協調して、復活させるように修正して参ります。はい。ありがとうございます。
2:02:42	よろしく願いいたします。私からは以上です。
2:02:51	規制庁の三浦です。
2:02:54	もう私これ一通り見さしていただいて、結果0尾藤も全く同じ手法だし、結果もそれなりに違いが、その結果に表れてるなということで、
2:03:05	計算結果は妥当なものだと思いました。
2:03:09	ちょっといくつか確認なんですけど、
2:03:12	例えば資料、
2:03:16	5番ですか。
2:03:18	添付資料でいうと、
2:03:21	英語版の18ページ。
2:03:25	これ地盤定数とかって出てますよね。先ほどちょっとご説明になられたように、
2:03:31	6号機の
2:03:34	藤藪部位に関しては、地盤構成がな動きとは変わります。
2:03:41	新規砂層と加古や佐田がなくて全部梅本指導です。
2:03:47	6号のリアクターをただ、
2:03:50	全く、
2:03:51	7号と一緒に、
2:03:52	新規があつて、小ヤスタがあつてっていうケース構成になってると思うんですが、
2:03:59	これ、今、このFBのところの地盤構成メモで指導にしたって、これ、この近くの
2:04:06	ボーリング結果なんかに基づいて、こういうふうな地層構成を設定されたっていうふうに理解してよろしいですか。
2:04:17	東京電力の冲でございます。ご認識の通り、このF-V基礎の直下で行った地盤調査の結果に基づいた層を層序と、
2:04:27	いうふうにしてございます。それは、次先ほどの4の一番の申請のそっちの方には、そのことって記載されてますか。
2:04:36	すいませんちょっと記載のほう確認いたしますが、同じく記載、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:04:47	東京電力宮口です。補足させていただきます。地盤の恣意性の中にもですね、申請対象設備の近傍の地盤と、あと直下の地盤といったものをすべてお示しをさせていただいております、
2:04:58	F-Vの近傍はですね、建設ときにオープン掘削して、解釈してますので、あそこの部分オオノ羽根タテも同じなんですけれども、12メートルぐらいちょっと掘っておりますので、
2:05:10	それは地盤の支持性能の中にもはい、書いております。はい、わかりました。それでね。
2:05:16	ちょっと不思議に思ったのが、
2:05:19	例えば今の資料5の15ページ見ると、
2:05:26	場所内交換コンクリート部位。
2:05:30	もう絵が左上になりますよね。
2:05:33	これ67号同じ長さになる。
2:05:36	するんですよ。
2:05:38	地盤改良深さとは、675全然違ってて、
2:05:44	6号は10メートルだけど7万20メートルぐらいあって、杭の長さは同じだと。これなぜですか。
2:05:50	東京電力の冲でございます。こちらですけども、先ほど関口からご説明差し上げた通りですね、7号のF-V等午後6号の全く同じ、
2:06:02	形をしてございますこちら涌井町も含めて全く同じでございます。で、この
2:06:09	区長についてはですね、鋼管杭を用いておりますので、作成にちょっと時間がかかるということで、一番日長い杭長のものに合わせて発注をかけてございます。
2:06:22	そのためですね、余分に掘りましたというか、根入れをしましたという状況になってございます。わかりましたニシヤマ中に加入してますよねこれね、何でこうやられたのかそれね。
2:06:35	もう一つ疑問は、
2:06:37	これ6号の、
2:06:40	コウムラ羽生コヤマこれからだと思んですけど、
2:06:43	大村羽生コウもうこれと同じ盤構成だって考えていいですか。
2:06:53	はい。東京電力宮口でございます。地盤の現地盤の構成は全く同じで42メートルぐらい掘り深めるところまでは、埋め戻しとそうでした、ただ今回、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:07:03	大村にタテにつきましては、直下もすべて改良して、ガチガチにちょっと固めてしまうかなと思ってますので、実際にお示しする地盤はまた異なるものをご説明する予定で考えてます。
2:07:16	規制庁の三浦ですけど、その6号の大物搬入コウもう、杭は杭ですよ。新たに杭打ちの指令で固めるんですよ。
2:07:25	それは、長さはどうするんですか。藤。2メートルぐらい入れしようかなと思ってますので、14メートルとか、それはまだ発注されてないから。はい。短くしようと、ちょっとフィルターベント。
2:07:41	はい。
2:07:42	うちはもう関係ないから、はい。
2:07:44	設定等、
2:07:45	結構、
2:07:46	そうだねこれ。
2:07:49	ちょっとキーなんですけど、タカダ見てるとね、もう少し大きな感じでしてね、地盤構成は6号の圧倒的にいいのに長澤一緒ウノ羽生コウになると隣同士あんのに短くしちゃうっていう。
2:08:05	だけどあれですか、6号のF-Vの方が、
2:08:09	ちょっとすごい保守的にやりましたっていうことで理解しました。
2:08:15	あとは結果はもう、大体こういう感じの結果だと思いますよね。
2:08:20	結構6号の先ほどの9-2かな。
2:08:28	別紙9-2で、
2:08:31	この青の部分、1.8メートル部分を改良体入れましたよね。
2:08:37	これって結構大戸正常に聞いてますね。
2:08:40	要するに、杭の曲げが一番大きくなる場所を現況押さえ込んでるんで、
2:08:45	結構振動周期も短くなってるし、結構効きがすごく何か聞いているなあという印象を持ちました。
2:08:52	結果としてはこんな結果になるんだろうなと思って理解しました。はい、わかりました。
2:09:09	規制庁の府川です。私から1点、ちょっと細かい確認なんですけれども資料番号が5番の
2:09:16	地震応答解析ですかね、ちょっとこちらの、
2:09:20	3ページお願いします。
2:09:27	3ページに2.2ポツの構造概要というところで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:09:31	真ん中辺りですかね、下から5行目あたりなんですけど装置基礎に加わる地震時の水平力はすべて耐震域で負担するっていう言葉があるんですけども、
2:09:42	まずちょっとこの確認として、
2:09:44	図の6ページの図なんかを見ると耐震兵器以外にも壁があるんで
2:09:51	その壁には期待せず、この耐震駅ですべて見ますよってまず部署としてはそういう理解でよろしいでしょうか。
2:10:01	奥寺区の沖でございますご認識の通りでございます。
2:10:04	施設フカワsわかりましたで、ちょっとこの文章、頭から見た時に装置基礎に加わる地震時ってなっていて装置基礎っていうと一行目に基礎スラブと斜樋PT、
2:10:15	基礎スラブも、水平力も対比切り負担するのちちょっと、そういう文章に読めてしまったんです実態そうじゃないってことですかね。
2:10:24	はい。東京電力の沖でございますその通りでございます耐震駅、上から来る分の水平力は、田井新駅が負担して下に適切に伝達するということですので、
2:10:36	そうですね、こちらの装置基礎に加わる地震の水平力はすべて耐震駅が負担して下に伝えますというような、
2:10:44	記載ですので、ちょっと記載の方はわかりづらいかもしれませんが、そういう認識でございます。
2:10:53	これちょっとその部会を招く文章に、なのかなと思ってちょっとそこら辺適正化していただいて、適切な形にちょっと、
2:11:00	していただければと思います。よろしく申し上げます。私から以上です。 はい。東京電力の沖でございますご指摘ありがとうございますこの部分を、のですね記載をちょっと見なおして、わかりやすく、記載の適正化をさせていただきます。
2:11:14	はい、規制庁チギラですか他に。
2:11:18	ありますか。
2:11:20	すみません、私の方から1点ちょっと確認させていただきたいんですけど、今回
2:11:27	資料の、
2:11:29	8番の別紙の9というところで、
2:11:34	掘削調査完了後の、ということで資料を追加していただいたんですけど、これと、
2:11:43	昨年の

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:11:45	柏崎のバッテリーカテゴリー上公認の審査会合。
2:11:51	で、昨年の 11 月 21 日にですね杭の損傷に関する追加調査についてというところで、当会合を開いていてその時に
2:12:02	宇井 6 号のフィルタベント基礎については、衛藤掘削調査完了後の地盤条件を考慮した耐震安全性を評価ということとその評価の結果を踏まえて補正申請後の審査では、
2:12:16	建屋の耐震安全耐震設計に係る説明を行う予定ということで説明があったんですけど、
2:12:24	これ、今日説明していただいたこの別紙の 9 で、それは部分的なのか、このあと他にも、
2:12:33	補足されるものがあるのか全体。
2:12:36	昨年の審査会合、
2:12:40	の内容、説明しますと言った内容が他に何か全体的に何か、
2:12:50	資料として説明があるのか、その辺りについてちょっと確認。
2:12:55	イシタいいんですけどいかがですか。
2:13:03	東京電力の小柳です。ご質問ありがとうございます。そういう意味で言いますと先ほど江崎さんから冒頭一番最初にですね、ご指摘いただいた、
2:13:15	残置物の撤去から改良道路へ復旧する経緯のお話ですとか、
2:13:21	ちょっと名にはあんまりに書いてないように、すいません見えてしまうかもしれないんですが、現状の図書ですと一番最後のまとめで、
2:13:30	添付のですね基本ケースというか、現状やっている現地盤の方が、保守的な評価となることをこの別紙 9 で確認していると。
2:13:38	というような位置付けにさせていただいておりますので、このまとめの書き方をもう少し、なので、
2:13:46	添付図書の方は現地盤の方でやってるんですよというような紐づけがですね、わかるような記載もですね少し拡充してそれが先ほど江崎さんからご指摘いただいた、
2:13:56	設計との位置付けでの話にも繋がるかなというふうに思いますので、別紙 9 の中でクローズしてですね少し分厚くなる可能性はありますが、施工方法の話、品質の話、経緯の話。
2:14:10	設計との関係としては、現在お示しているケースの方が設計としては保守的なんですというようなところまで、この中で記載できればいいかなと。
2:14:20	いうふうに、現時点では考えております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:14:23	はい、わかりました。これ今地震応答計算書の補足ということでそこが大きくなるかもしれないってうちちょっとまとめ方とか、
2:14:33	ていうのは今後、今後検討されるということで、他に何か今、事象と計算上ですけど耐震計算書の中で、
2:14:44	この
2:14:45	この掘削の話が関与するものってあるんですかね。
2:14:50	東京電力の小柳です。そういう意味で言いますと、ご案内の通り、まずシンボと経産省のご説明を差し上げて、そこで設定した地震力設計地震力に対して、
2:15:03	部材評価等耐震性の耐震の計算書の方でご説明するという流れになりますので、今言ったような経緯のお話は、事象と計算書前段のですね上流側の方に書いてあれば、
2:15:14	十分かなというふうに考えています。
2:15:22	ですけど、これってやっぱり1回審査会合で、この中で、特にこれ以外って、あまり論点はなくてこれも論点ではないんだけど、
2:15:34	一応、
2:15:36	ちゃんとね、結末は、
2:15:39	会合でオープン。
2:15:41	か公開の場ではっきりして基本的にもう、
2:15:44	問題なくように承知はしていて、設計的にはちゃんと問題ないってのもちゃんと確認できてる。
2:15:52	でそれをちゃんと規制庁に説明してるってということがわかるように、
2:15:56	会合で1回やった方がいいとは思いますが、いかがでしょうこれって、それだけじゃなくて、まだ他の号機の何だっけ。
2:16:03	白木とのところをどうするかって話もあるでしょうしあれは、計算上もともと国が期待しないからいいんだって話にはなってはいるんですけど、あそこはどうすんでしたっけ。
2:16:15	ここまで終わってないんでさっき残置物は、
2:16:19	5号機のF-Vの
2:16:24	基礎用に作っているもので可搬型電源の
2:16:27	すぐ真横に立っている。
2:16:30	障害物よけみたいなものですねこちらについては全然杭には期待していない、お話になっていて、かなり保守的な評価なので、もうクローズしている。
2:16:40	ていうふうに我々の一昨年は認識していました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:16:45	もう傾いても何しても波及影響で倒れなければいいよみたいな、電源車をいじめなければいいので、大丈夫かなと思ってます。
2:16:53	何かね。どこかのタイミングこれだけっていうとそういうのに時間がかかるものではないので、多分ブロアートパネルとか会合かけるものってありますよねそういうそちらで考えてる。
2:17:04	そうした中の時間の中でちょっと割いてもらって、
2:17:07	一応、
2:17:08	この検討の結果は一応紹介、ご紹介していただいた方が割と、
2:17:16	いいんじゃないかなと思いますんでそれはちょっとどうするか、東京電力として、ちょっと検討していただければと思います。
2:17:22	はい。東京電力の小柳です。
2:17:25	ちょっとですねどういった形で会合にかけるのかというのは、追々ですね資料がある程度補足説明資料の方が、形が定まってきた段階でご説明、ご相談させていただきたいなとは思いますが、
2:17:38	今言った形で別紙 9 の内容が、木崎さんのコメントの反映をしてですね、クローズするような形になれば、少しちょっと危機な感じをしますけれども、
2:17:50	別紙 9 だけ説明してもそんなに掘削して調査をして、そのあと目黒した結果として安全性に与える影響はないと、というような、ご確認いただくバーとしては、
2:18:01	問題ないのかもしれないなと今思い始めておりますので、
2:18:05	別紙別紙 9 だけでいいんですかねおそらくそれでいいかなと思っておりますが、そこをちょっとローカルにご説明させていただくような流れかなというふうに今お話を伺って考えております。
2:18:21	はい。終わるまでに、どっかで 1 度、いっぱいいます。はい。
2:18:57	はい。まず、ドキュメントというかですね別紙 9 の形でまとめさせていただいてその中の
2:19:03	エッセンスを、パワーポイントみたいな形でもいいと思うので、いきなりなんか別紙 9 だけ説明しますという少し、
2:19:11	キーな感じがするなというのがちょっと気になっていたところなので、それがもう、別のように資源と言わなくてもいいと思いますので、その件に関してはこういうパワポ意識で、
2:19:22	ご説明すると、というような形でもいいかなと思いましたがのでいずれにしても、そんなすぐ、ちょっとこちらもいろいろ経緯をまとめたりですね、施工の部分も、完全にフィックスしてるかというはまだ掘り進めてるな。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:19:35	状態だったりしますので、時間軸でどのぐらいでできるかなって話もありますから、おいおいご説明相談させていただければと思います。
2:19:55	えっとですね、そう、そこまでのババ数よりは、その前に終わっていた方が、我々としても心配の種が減っていて、いいかなとすいません個人的には、
2:20:08	ちょっとすいません事務局とも話してませんが、早めに露払いできるものは払ってしまいたい気持ちは個人的にあります。
2:20:26	はい。ですので、この今回、
2:20:29	頑張って1回目の補正で入れさせていただきましたので、その中で扱っていただきたいなど。
2:20:35	よろしくお願いします。
2:20:44	はい。
2:20:45	よろしいですかね。はい。
2:20:47	では次の説明の方、お願いします。
2:20:57	組んで、
2:20:59	あと5分ぐらいで。はい。次お願いします。はい。
2:21:03	資料ナンバー10から15、15についてなんですけれども、コントロール建屋、廃棄物処理建屋、緊急時対策所の地震応答計算書
2:21:15	についてご提出させていただいております。
2:21:18	それに付随する補足説明資料についても、ご提出させていただいております。
2:21:22	ただNo.10から15の資料につきましては、7号本7号の購入の読み込みになってございますので、
2:21:32	これで説明の方終わりとさせていただきます。
2:21:38	以上で本日の資料のご説明は、はい。
2:21:41	終わりとなります。
2:21:43	はい。
2:21:45	はい。
2:21:46	では、今の説明とあと、全体通して、規制側から何か、
2:21:51	確認する点ありますか。
2:21:53	よろしいですかね。はい。
2:21:54	東京電力から、
2:21:56	追加、
2:21:57	よろしいですか。
2:21:58	はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:21:59	わかりました。はい。それでは本日予定した項目は終わりましたので、本日のヒアリング終了いたします。ありがとうございました。
---------	--

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。